

2025年度

科目名称	基礎整復学
授業コード	BH120
英語名称	Fundamental reposition by Judo 1
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	畑山 元政
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	柔道整復師の基礎となる柔道整復術の成り立ちや柔道との関わり，柔道整復術の現代的意義とその沿革について教授する。 また，柔道整復師が行う柔道整復術の業務範囲と施術の限界，柔道整復師としての心得や倫理綱領の理念を学ぶ。
科目に関連する実務経験と授業への活用	柔道整復師が接骨院で扱う運動器外傷について，長年接骨院に勤務し患者をみてきた柔道整復師が施術経験や知識を活かして講義する。
到達目標	・柔道整復の社会的成り立ちを学び，柔道整復師の業務範囲と指導要領など教育の現状を理解する。柔道整復術の治療法における非観血療法の限界を学ぶことで柔道整復師という職域の理解を深め，専門職としての基礎的な考え方，知識を身につける。この科目は専門分野の科目群のひとつである。 ・ディプロマ・ポリシーに掲げる「柔道整復師の社会的役割を理解し、適切に行動するための知識を身につけている」を実現できるよう柔道整復の基礎知識を身につける。
計画・内容	第1回 ガイダンス，第1章概説（1.柔道整復術および柔道整復師の沿革） 第2回 第1章概説（1.柔道整復術および柔道整復師の沿革） 第3回 第1章概説（2.業務範囲とその心得および柔道整復師倫理綱領） 第4回 第2章総論（1.人体に加わる力，2.損傷時に加わる力） 第5回 第2章総論（3.痛みの基礎） 第6回 第2章総論（5.診察） 第7回 第2章総論（6.治療法：6-1 整復法 骨折） 第8回 第2章総論（6.治療法：6-1 整復法 脱臼，軟部組織損傷の初期処置） 第9回 第2章総論（6.治療法：6-2 固定法） 第10回 第2章総論（6.治療法：6-3 後療法 手技療法） 第11回 第2章総論（6.治療法：6-3 後療法 運動療法） 第12回 第2章総論（6.治療法：6-3 後療法 物理療法） 第13回 第2章総論（6.治療法：6-4 指導管理） 第14回 第2章総論（7.外傷予防） 第15回 まとめ，理解度の確認
授業の進め方	教科書に沿って講義する。随時視覚教材を使用して解説していくことで，知識の研鑽を行えるよう進めていく。また，必要に応じて資料等の配布を行う。授業内で学生への質問も行う予定なので，積極的な授業態度が期待される。 課題は，事前に提示された期日までに提出することを基本とする。
能動的な学びの実施	該当しない
授業時間外の学修	予習：各回，教科書の該当箇所の通読を行うこと。(15時間) 復習：配布資料や授業中書き留めたメモをまとめ，独自の講義ノートを作成すること。(45時間)

2025年度

教科書・参考書	公益社団法人全国柔道整復学校協会監修，公益社団法人全国柔道整復学校協会・教科書委員会編，柔道整復学・理論編，改訂第7版，南江堂
成績評価方法と基準	定期試験（80％）＋レポート（20％）
課題等に対するフィードバック	レポートは返却する。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	本科目は柔道整復師国家試験の受験資格取得にとって必要であるから必ず履修する事。 授業の進行により内容が変更されることもあるので留意すること。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 Zoomによるオンライン授業と課題学修を組み合わせで実施する。 成績評価方法と基準 授業中の課題60％と期末レポート40％で評価する。

2025年度

科目名称	基礎整復学
授業コード	BH121
英語名称	Fundamental reposition by Judo 2
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	浅木 健治
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	・柔道整復師の施術範囲のうち、骨折（総論）について学ぶ
科目に関連する実務経験と授業への活用	・柔道整復師としての接骨院にて臨床経験のある教員が骨折の概要について講義する
到達目標	・本科目は、ディプロマ・ポリシーの【柔道整復師に必要な医学的知識・技術および基本的技能を有している】を達成するための土台となる科目である ・応用分野である骨折各論を理解するために必要不可欠な知識を身につけることを目標とする
計画・内容	1) 骨について（構成・機能・構造） 2) 骨折の定義 / 骨損傷にかかわる力 / 骨折の分類 3) 骨折の分類 4) 骨折の分類 5) 骨折の分類 6) 骨折の分類 7) 骨折の症状（一般外傷症状） 8) 骨折の症状（骨折の固有症状） 9) 骨折の症状（骨折の全身症状） / 骨折の合併症（併発症） 10) 骨折の合併症（続発症） 11) 骨折の合併症（後遺症 ） 12) 骨折の合併症（後遺症 ） 13) 小児骨折 14) 高齢者骨折

2025年度

計画・内容	15) 骨折の治癒について
授業の進め方	・配布プリントおよび教科書にて講義内容の理解 ・当該講義分の問題を実施し、理解度を確認
能動的な学びの実施	・該当なし
授業時間外の学修	・予習：次回講義該当箇所の教科書および配布プリントの通読 ・復習：実施した講義回の問題演習の反復学習およびプリント整理 (各回1～2時間)
教科書・参考書	・書籍名：柔道整復学・理論編 改訂第7版 ・著者/編者名：公益社団法人 全国柔道整復学校協会 ・出版社：株式会社 南江堂 ・出版年：2022年 3月
成績評価方法と基準	・定期試験(100%) 本試験のみで【再試験は実施しない】
課題等に対するフィードバック	・各講義ごとに確認問題を実施する ・講義内で解答合わせと解説を行い 理解不足の箇所をすぐに確認できるようにする
オフィスアワー	・Campus Square を参照
留意事項	・出欠カードリーダーの不正利用が判明した場合は 懲戒(退学、停学及び戒告)の対象となることがある ・欠席の際は【講義開始時刻までに】メール連絡すること 欠席連絡のない場合は、配布プリントの確保はしない
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	Zoomによるオンライン授業 授業動画配信によるオンデマンド授業 課題学修 のいずれかを実施、または複数を組み合わせて実施する 定期試験(100%) 対面試験が実施できない場合は それに代わる非対面試験で評価する

2025年度

科目名称	基礎整復学
授業コード	BH157
英語名称	Fundamental reposition by Judo 3
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	戸部 悠紀
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	柔道整復師を目指すうえで必要となる、上肢の骨・筋・関節・神経についての基礎解剖および脱臼の総論、関節の損傷、治療法（整復法、固定法）について、柔道整復師として整形外科および接骨院での十分な臨床経験のある教員が講義する。脱臼の総論では、各損傷の定義・脱臼の分類・脱臼の一般症状および固有症状・脱臼の整復法のポイント、特に、無麻酔での整復法の利点や整復障害について詳しく講義する。基礎的知識および柔道整復師国家試験水準の知識、臨床に活かせる技術を理解し、講義内容について重要点を要約できる学習力を身につける。
科目に関連する実務経験と授業への活用	各種スポーツの救護活動で実体験した内容や、整形外科勤務・接骨院院長などの実務経験に基づき講義する。（所有資格：柔道整復師）
到達目標	ディプロマポリシーに掲げる「柔道整復師に必要な医学的知識・技術および基本的技能を有している。」のために「柔道整復の専門知識を学び、論理的思考を養う」事を目的とする。 ・柔道整復の専門職者として相応しい知識を学び、人々の健康を考慮しながら自らの考えを構築できるよう学習に努められる。 ・倫理観および柔道整復師としての基礎的な能力を身につけ、臨床に活かせる技術を理解し、講義内容について重要点を要約できる学習力を身につける。
計画・内容	1) 授業ガイダンス（倫理含む）、上肢骨について 上肢の骨格（鎖骨・肩甲骨） 2) 上肢骨について 上肢の骨格（上腕骨・手指骨） 3) 上肢の関節について 上肢の関節（上肢帯） 4) 上肢の関節について 上肢の関節（自由上肢骨） 5) 上肢の筋について 肩甲部～上腕部 6) 上肢の筋について 上腕部～手指部 7) 上肢の神経について 8) 関節損傷の構造・構成組織・定義・鑑別診断について

2025年度

計画・内容	9) 関節構成組織の損傷について 10) 脱臼の定義について 11) 脱臼の分類について 12) 脱臼の症状 13) 脱臼の合併症・整復障害について 14) 上肢骨・関節・筋についての復習 15) 脱臼の総論についての復習
授業の進め方	教科書を中心にプロジェクターやプリント等を利用しながら進め、復習のため授業内に既習範囲の小テストなどを行うこともある。 過去の国家試験問題や演習問題を解いて重要点を把握する。 講義の復習回に講義内容についての授業内レポート（要約）を作成・提出する。 対面での講義実施が不可能な場合はzoomにより遠隔にて講義を実施する。
能動的な学びの実施	アクティブ・ラーニングのLite技法を用いて、短期記憶で消させずに長期記憶となるように実践する。
授業時間外の学修	・次回講義内容となる範囲の予習を行い、復習内容と合わせて不明な点をまとめる。 ・教科書、プリント、講義内容を関連付けて自分の講義ノートを整理すること (合計60時間程度)
教科書・参考書	社団法人全国柔道整復学校協会監修・社団法人全国柔道整復学校協会教科書委員会編「柔道整復学・理論編」発行所・株式会社南江堂（7300＋税） 社団法人全国柔道整復学校協会監修・岸清、石塚寛編「解剖学 第2版」発行所・医歯薬出版株式会社（7800＋税）
成績評価方法と基準	期末試験の成績で評価するが、その他に学習態度(意欲を持って取り組む。私語、居眠り、携帯で遊ぶなどは禁止)・授業内レポート等も考慮し総合的に評価する。 期末試験：75% レポート・講義への取り組み：25%
課題等に対するフィードバック	学生からのコメントペーパーの内容をもとに、授業への反映や資料配布等を行う。
オフィスアワー	CampusSquareを参照。
留意事項	必修科目のため必ず履修すること。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	対面での試験実施が不可能な場合は、それに代わる課題で評価する。 ZOOMによる講義または課題によるレポートを作成し提出 レポート課題（50％）、定期試験（50％）を総合的に評価する。レポート課題の未提出および提出期限を過ぎてからの提出は欠席扱いとする。

2025年度

科目名称	基礎整復学
授業コード	BH151
英語名称	Fundamental reposition by Judo 4
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	二神 弘子
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	筋、腱、末梢神経の解剖学、生理学、運動学的な基礎知識を元に、損傷の概説、症状、治癒機序、初期処置について学ぶ。筋、腱、末梢神経損傷の特徴を理解して、2年生以降に開講される各論および卒業後の臨床のための基礎を構築する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	柔道整復師・鍼灸師の教員が整形外科、鍼灸接骨院での軟部組織損傷の施術経験を活かして、柔道整復学の基礎理論である筋、腱、末梢神経の軟部組織損傷の総論について講義する。
到達目標	・ディプロマ・ポリシーに掲げる「柔道整復師に必要な医学的知識・技術および基本的技能を有している」ことを実現するために、本科目ではカリキュラム・ポリシーに掲げる「柔道整復の専門知識を学び、論理的思考を養う」ことを目的とする。 具体的には ・各軟部組織の解剖・生理学・運動学的特徴、損傷の概説、症状、治癒機序、治療法原則について説明することができる。 ・各軟部組織損傷について理解し、各論の理解、および臨床応用へと発展させることができる。
計画・内容	1) ガイダンス、医療の倫理、運動器系と運動の仕組み、軟部組織損傷の初期処置 2) 筋損傷(1) 筋の構造と機能 3) 筋損傷(2) 筋の補助装置、神経、脈管、筋収縮の仕組み 4) 筋損傷(3) 筋線維の種類、筋損傷の概説、筋損傷の分類 5) 筋損傷(4) 筋損傷の分類、筋損傷の症状 6) 筋損傷(5) 筋損傷の治癒機序、予後、初期処置の原則 7) 運動器系と運動の仕組み、軟部組織損傷の初期処置、筋損傷のまとめ 8) 腱損傷(1) 腱の構造と機能 9) 腱損傷(2) 腱損傷の概説、腱損傷の分類 10) 腱損傷(3) 腱損傷の分類、症状、治癒機序、初期処置の原則 11) 末梢神経損傷(1) 末梢神経の構造と機能 12) 末梢神経損傷(2) 末梢神経損傷の概説、末梢神経損傷の分類 13) 末梢神経損傷(3) 末梢神経損傷の分類、末梢神経損傷の症状 14) 末梢神経損傷(4) 末梢神経損傷の症状、治癒機序、初期処置の原則 15) 腱損傷、末梢神経損傷のまとめ
授業の進め方	・配布資料を中心に教科書および映像資料を利用しながら講義を行う。 ・授業回ごとに振り返り課題を提示し、授業内容の理解を深める ・第7回(第1～6回講義分)、第15回(第8回～14回講義分)にはまとめを行い、各範囲の理解度の確認と

2025年度

授業の進め方	補完を行う。
能動的な学びの実施	・復習のための課題を提示して、自習のガイドラインとする。
授業時間外の学修	予習：講義の内容またはキーワードに関して基本的な理解を得る。 復習：課題を行うほか配布資料や授業中のメモをまとめる。 合計で60時間以上の学修を行う。
教科書・参考書	教科書：柔道整復学理論編（全国柔道整復学校協会監修、南江堂）、配布資料 参考書：授業内でその都度紹介する。
成績評価方法と基準	成績評価基準：到達目標に達しているかどうか 成績評価方法： ・課題（30%）、試験（70%：まとめテスト20%、単位認定試験50%）による。 ・評価の条件は全体の2/3以上の出席とする。
課題等に対するフィードバック	・提出された課題について解答解説を行い、内容は次回以降の授業に反映させる。
オフィスアワー	Campus Square参照
留意事項	・軟部組織損傷は単独でも起こるが、骨折や脱臼時にも必ず合併する。本講義は柔道整復師が扱う外傷の中心となる知識のひとつであり、すべての各論および臨床の基礎となる重要な科目である。卒業後の臨床に直結する科目なので積極的に取り組んでいただきたい。 ・シラバスの変更についてはその都度講義内で連絡する。 ・出席は毎回指定座席への着席およびデジタルカードチェックにより確認するが、授業内提出を実施したときはその提出状況を優先する。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 ・オンライン授業と課題提出を行う。 ・出席確認は、オンライン授業実施回は授業出席と課題提出の両方で出席とする。課題提出のみの場合は課題提出をもって出席とする。 成績評価方法と基準 成績評価基準：到達目標に達しているかどうか 成績評価方法： ・授業ごとの課題提出（50%）、期末試験（50%）による。 ・期末試験は対面により行うがウイルス感染状況などにより変更する場合もある。 ・評価の条件は全体の2/3以上の出席とする。

2025年度

科目名称	基礎整復学
授業コード	BH228
英語名称	Fundamental reposition by Judo 5
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	浅木 健治, 行田 直人
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	・柔道整復術の後療法について 意義, 施術の中の位置づけ, 選択の手順を学習する ・各後療法 (手技療法・運動療法) の適応, 禁忌を学習する ・救急の場面において必要な救急医療や応急処置の知識を学習する
科目に関連する実務経験と授業への活用	・柔道整復師として必要な後療法 (手技療法・運動療法) の知識と手法と救急の場面で必要な救急医療の知識と実践能力を ・長年, 接骨院業務や救護活動に従事し臨床経験のある教員がそれぞれの専門分野を分担して講義, 実演する
到達目標	・ディプロマ・ポリシーに掲げる【柔道整復師に必要な医学的知識・技術および基本的技能を有している】を実現できるよう後療法の基礎知識および救急医療について理解, 習得する
計画・内容	1) 救急法とは 担当教員: 行 田【柔道整復師・鍼灸師】 2) 心肺蘇生法について 担当教員: 行 田 3) 応急手当の方法について 担当教員: 行 田 4) 災害時の対処法について 担当教員: 行 田 5) 心肺蘇生法実践1 (幼児, 小児) 担当教員: 行 田 6) 心肺蘇生法実践2 (大人) 担当教員: 行 田 7) 後療法総論 担当教員: 浅 木【柔道整復師】 8) 手技療法 (基本型・応用) 担当教員: 浅 木 9) 手技療法 (禁忌) 担当教員: 浅 木 10) 手技療法まとめ 担当教員: 浅 木 11) 運動療法 (運動の基本型) 担当教員: 浅 木 12) 運動療法 (禁忌) 担当教員: 浅 木

2025年度

計画・内容	13) 手技療法・運動療法まとめ 担当教員：浅 木 14) 後療法総括 担当教員：浅 木 15) 全体まとめ 担当教員：浅 木
授業の進め方	・講義と実技にて実施 ・教科書および配布プリントにて講義内容の理解 ・当該講義分の問題を実施し、理解度を確認
能動的な学びの実施	・該当なし
授業時間外の学修	・予 習：次回講義該当箇所の教科書および配布プリントの通読 ・復 習：実施した講義回の問題練習の反復学習およびプリント整理（各回1～2時間）
教科書・参考書	【教科書】 ・書籍名：柔道整復学・理論編 改訂第7版 ・著 者／編者名：公益社団法人 全国柔道整復学校協会 ・出版社：株式会社 南江堂 ・出版年：2022年 3月 【参考書：購入任意】 ・書籍名：柔道整復師のための救急医学 ・著 者／編者名：公益社団法人 全国柔道整復学校協会／太田祥一 ・出版社：株式会社 南江堂 ・出版年：2010年 5月
成績評価方法と基準	・定期試験（100％）
課題等に対するフィードバック	・各講義ごとに確認問題を実施する ・講義内で解答合わせと解説を行い 学生が理解不足の箇所をすぐに確認できるようにする
オフィスアワー	・Campus Square を参照
留意事項	・出欠カードリーダーの不正利用が判明した場合は懲戒（退学，停学及び戒告）の対象となることがある 《浅木担当回（7回～15回）》 ・欠席の際は【講義開始時刻までに】メール連絡すること 欠席連絡のない場合は，配布プリントの確保はしない
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	Zoomによるオンライン授業 授業動画配信によるオンデマンド授業 課題学修 のいずれかを実施，または複数を組み合わせて実施する 定期試験（100％） 対面試験が実施できない場合は それに代わる非対面試験で評価する

2025年度

科目名称	基礎整復学
授業コード	BH357
英語名称	Fundamental reposition by Judo 6
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	行田 直人
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	臨床的な医学・柔道整復学の知識・理解をさらに深め、基礎整復学演習 で習得した内容から、さらに実践的応用能力に対応できる教育を行う。
科目に関連する実務経験と授業への活用	主に外傷に対する保存療法を取り上げ、臨床経験豊富な本学教員（柔道整復師）が、外傷発生メカニズムや保存療法の適否、保存療法の処方などを教授する。
到達目標	カリキュラムポリシーに掲げる柔道整復の応用力・実践力を身につけるため、外傷発生メカニズムや保存療法の適否、保存療法の考え方を理解する。
計画・内容	担当：行田直人（柔道整復師） 1．競技者の外傷発生状況について 担当：行田直人 予習：上記内容について 復習：上記内容について 2．外傷発生要因と予防対策について 担当：行田直人 予習：上記内容について 復習：上記内容について 3．メディカルチェックについて 担当：行田直人 予習：上記内容について 復習：上記内容について 4．外傷予防における各種コンディショニング方法について 担当：行田直人 予習：上記内容について 復習：上記内容について 5．競技例1）柔道における外傷予防について 担当：行田直人 予習：上記内容について 復習：上記内容について 6．競技例2）水泳における外傷予防について 担当：行田直人 予習：上記内容について 復習：上記内容について 7．競技例3）バスケットボールにおける外傷予防について 担当：行田直人 予習：上記内容について 復習：上記内容について 8．競技例4）サッカーにおける外傷予防について 担当：行田直人 予習：上記内容について 復習：上記内容について 9．成長期における外傷予防について 担当：行田直人 予習：上記内容について 復習：上記内容について 10．高齢者の外傷予防について 担当：行田直人 予習：上記内容について 復習：上記内容について 11．コンディショニングの応用例（上肢・体幹） 担当：行田直人 予習：上記内容について調査 復習：上記内容について 12．コンディショニングの応用例（下肢） 担当：行田直人 予習：上記内容について調査 復習：上記内容について 13．外傷予防のおさらい（講義1～4） 担当：行田直人 予習：上記内容について 復習：上記内容について 14．外傷予防のおさらい（講義5～8） 担当：行田直人 予習：上記内容について 復習：上記内容について 15．外傷予防のおさらい（講義9～10） 担当：行田直人 予習：上記内容について 復習：上記内容について

2025年度

計画・内容	
授業の進め方	教科書および必要に応じて資料を配布し授業を行う。 コロナウイルスの状況により、本講義はcampus square上での課題学習、オンライン講義等で行う。
能動的な学びの実施	毎回確認テスト（課題）とその解説を適時行い、理解度の振り返りを行う。
授業時間外の学修	予習・復習に合計60時間以上行うこと。 予習：講義終了後に予習内容を通知する 復習：講義にて特に重要な箇所を指示する。
教科書・参考書	教科書：競技者の外傷予防（全国柔道整復学校協会監修；医歯薬出版）
成績評価方法と基準	教科書内容に準じた授業資料に関する内容にて定期試験（100％）で評価する。小テストを実施した場合には小テスト（20％）および定期試験（80％）で総合評価する。
課題等に対するフィードバック	成績の低かった学生には適時指導を行う。
オフィスアワー	Campus squareを参照すること。
留意事項	これまで学んだ生理学、解剖学や柔道整復学の知識が必要である。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	zoomによるオンライン授業と課題学修を組み合わせで実施する。 事前に授業資料をcampus squareにて掲示、授業終了後に課題を課す。 授業資料を基に課題回答内容評価20%およびcampus square掲示機能による定期試験80%により評価する。

2025年度

科目名称	臨床整復学
授業コード	BH152
英語名称	Clinical theory of reposition by Judo 1
学期	2025年度後期
単位	1.0
担当教員	金島 裕樹
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	「骨折とは？」について学習する総論に対して、本科目は各論である。 鎖骨・肩甲骨・上腕骨の骨折について学習する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	全国柔道整復学校協会の教科書委員を7年間つとめてきた経験を活かして、各部位の骨折について理論的に講義する。 同時に、整形外科の勤務経験と整骨院院長としての経験を活かして、臨床現場に活かせる知識と技術を教授する。
到達目標	ディプロマ・ポリシーに掲げる「柔道整復師に必要な医学的知識・技術および基本的技能を有している」ことを獲得するため、カリキュラム・ポリシーに掲げる「柔道整復の専門知識を学び、論理的思考を養う」ことを目的として、下記の到達目標をあげる。 国家試験出題基準の本科目該当範囲において、基礎を固めて応用力を高め、合格の基準に達するのと同時に、臨床現場で必要となる能力を身につける。
計画・内容	第1回 ガイダンス 鎖骨骨折（特徴・発生機序など） 第2回 鎖骨骨折（転位・症状・整復法・固定法・後療法・合併症など） 第3回 肩甲骨の骨折（特徴・分類） -肩甲骨骨体部骨折および上・下角骨折 -関節窩骨折 第4回 肩甲骨の骨折 -頸部骨折 -肩峰骨折 -烏口突起骨折 第5回 上腕骨近位部の骨折 -骨頭骨折 -解剖頸骨折 -外科頸骨折（特徴・発生機序など） 第6回 上腕骨近位部の骨折 -外科頸骨折（症状・整復法など） 第7回 上腕骨近位部の骨折 -外科頸骨折（固定法・後療法・合併症など） -大結節単独骨折（特徴・発生機序など）

計画・内容	第8回 上腕骨近位部の骨折 -大結節単独骨折（治療など） -小結節単独骨折 -近位骨端線離開 上腕骨骨幹部骨折（特徴・発生機序・症状など） 第9回 上腕骨骨幹部骨折（整復法・固定法・後療法・合併症・予後など） 第10回 肘関節の構造 上腕骨遠位部の骨折 第11回 上腕骨遠位部の骨折 -上腕骨顆上骨折（特徴・発生機序・骨折線と骨片転位・症状・整復法など） 第12回 上腕骨遠位部の骨折 -上腕骨顆上骨折（整復法・固定法など） 第13回 上腕骨遠位部の骨折 -上腕骨顆上骨折（固定法・後療法・合併症など） 第14回 上腕骨遠位部の骨折 -上腕骨外顆骨折（特徴・発生機序・骨折線と骨片転位・症状・整復法など） 第15回 上腕骨遠位部の骨折 -上腕骨外顆骨折（整復法・固定法・後遺症など） -上腕骨内側上顆骨折
授業の進め方	・パワーポイントを使用した授業形式で講義を行う。 ・ワークブック形式のプリントを配布して活用する。
能動的な学びの実施	・学生への質問を活発に行う予定なので、積極的な授業態度が期待される。 ・参加型の講義とするため発言による授業内でのフィードバックを行い理解力を深める。
授業時間外の学修	予習：講義予定の内容を確認し、教科書の当該箇所を熟読して、ワークブック形式のプリントのカッコ内をうめておく。 復習：配布プリントをもとに自分の講義ノートを整理する。 （合計60時間程度）
教科書・参考書	「柔道整復学・理論編」南江堂 「柔道整復学・実技編」南江堂
成績評価方法と基準	・課題レポート：20% ・期末試験：80% 期末試験の受験資格は、授業実施数の2/3以上出席している者とする。 上記の成績評価方法にて、本科目の到達目標に達しているかどうかを判定し評価する。
課題等に対するフィードバック	・学生からのコメントをもとに、授業への反映や資料配布等を行う。 ・学生の発言の都度、コメントを行う。
オフィスアワー	Campus Squareを参照
留意事項	学ぶことは楽しいことです。 未知のことがらの発見から、知的好奇心を育て、考える能力を身につけましょう。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	Zoomによるオンライン授業 課題レポート：20%、試験日が非対面となった場合は、オンライン試験を実施：80% 試験の受験資格は、対面授業とオンライン授業の実施数の2/3以上出席している者とする。 上記の成績評価方法にて、本科目の到達目標に達しているかどうかを判定し評価する。

2025年度

科目名称	臨床整復学
授業コード	BH229
英語名称	Clinical theory of reposition by Judo 2
学期	2025年度前期
単位	1.0
担当教員	濱田 淳
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	上肢（上肢帯から上腕部周辺）の脱臼・筋腱軟部組織損傷を中心に、診断法・整復法・固定法・後療法等について総合的に講義する。 柔道整復師の業務範囲を踏まえての適応を理解し、柔道整復師の施術を理解できるよう学ぶ。
科目に関連する実務経験と授業への活用	長年接骨院で患者をみてきた柔道整復師である教員が、上肢（上肢帯から上腕部周辺まで）の各部損傷について、豊富な臨床体験教育を通し、地域医療に貢献できることを目的とした講義を実施する。 担当教員 濱田 淳 元接骨院院長 柔道整復師
到達目標	ディプロマポリシーに掲げる「柔道整復師に必要な医学的知識・技術および基本的技能」を有することを目的として、総合的に診断法・整復法・固定法・後療法等について理解する。 カリキュラムポリシーに掲げる「柔道整復の専門知識を学び、論理的思考を養う」ことにより、柔道整復師の基礎概念を習得し、本講義内で学習する外傷について理論的に理解し、それを第三者に説明できるとともに、実践するために何が必要か分析できる知識を身につける。
計画・内容	1) 授業ガイダンス（倫理含む） 上肢帯・自由上肢骨の骨形態および機能解剖について 2) 鎖骨の脱臼（胸鎖関節脱臼・肩鎖関節脱臼） 特徴と機能解剖を説明し、鎖骨の脱臼を理解する。 3) 鎖骨の脱臼（胸鎖関節脱臼・肩鎖関節脱臼） 臨床症例を用いて具体的に理解し、固定法、後療法、予後を想定して理解する。 4) 肩関節脱臼 肩関節の特徴と機能解剖を説明する。 5) 肩関節脱臼 臨床症例を用いて具体的に理解する。整復法、固定法を理解する。 6) 肩関節肩関節脱臼 後療法、予後を想定して理解する。観血的療法の適応例などを理解する。 7) 肩部および上腕部の筋腱軟部組織損傷 肩板損傷の臨床症状 8) 肩部および上腕部の筋腱軟部組織損傷

2025年度

計画・内容	腱板損傷の検査法を理解する。 9 肩部および上腕部の筋腱軟部組織損傷 上腕二頭筋長頭腱損傷の臨床症状 10) 肩部および上腕部の筋腱軟部組織損傷 上腕二頭筋長頭腱損傷の検査法を理解する。 11) 肩部および上腕部の筋腱軟部組織損傷 ベネット損傷、SLAP損傷の臨床症状 12) 肩部および上腕部の筋腱軟部組織損傷 肩関節周囲の様々な損傷の病態を理解する。 13) 肩部および上腕部の筋腱軟部組織損傷 神経損傷等の様々な損傷の病態を理解する。 14) 上腕部の軟部組織損傷および全体総復習 15) 総復習（問題演習）
授業の進め方	解剖学的な理解も含め教科書を中心にプロジェクターやプリント等を利用しながら進め、復習のため既習範囲の小テストなどを行う。 過去の国家試験問題や練習問題を解いて重要点を把握する。 講義の内容により授業内レポート（要約）を作成・提出する。
能動的な学びの実施	アクティブ・ラーニングを用いて、短期記憶で消させずに長期記憶となるように実践する。
授業時間外の学修	・次回講義内容となる範囲の予習を行い、復習内容と合わせて不明な点をまとめる。 ・教科書、プリント、講義内容を関連付けて自分の講義ノートを整理すること (合計60時間程度)
教科書・参考書	教科書：柔道整復学【理論編】（南江堂） 解剖学 第2版（医歯薬出版） 参考書：柔道整復師過去国家試験問題集
成績評価方法と基準	基本的に期末試験の成績で評価するが、その他に学習態度(意欲を持って取り組む。私語、居眠り、携帯で遊ぶなどは禁止)・授業内レポート等も考慮し総合的に評価する。 期末試験：80% その他：20% 対面での試験実施が不可能な場合は、それに代わる課題で評価する。
課題等に対するフィードバック	学生からのコメントペーパーの内容をもとに、授業への反映や配布資料等を行う。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	柔道整復師国家試験資格取得に必須の科目、基礎整復学、基礎整復学に関連する。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	ZOOMによる講義または課題によるレポートを作成し提出 レポート課題の未提出および提出期限を過ぎてからの提出は欠席扱いとする。 WEB上での期末試験を実施予定：80% 講義への参加状況およびレポート課題：20%（レポート内容を総合的に評価する。）

2025年度

科目名称	臨床整復学
授業コード	BH283
英語名称	Clinical theory of reposition by Judo 3
学期	2025年度後期
単位	1.0
担当教員	金島 裕樹
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	「骨折とは？」について学習する総論に対して、本科目は各論である。 前腕骨・手根骨・中手骨・指骨の骨折について学習する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	全国柔道整復学校協会の教科書委員を7年間つとめてきた経験を活かして、各部位の骨折について理論的に講義する。 同時に、整形外科の勤務経験と整骨院院長としての経験を活かして、臨床現場に活かせる知識と技術を教授する。
到達目標	ディプロマ・ポリシーに掲げる「柔道整復師に必要な医学的知識・技術および基本的技能を有している」ことを獲得するため、カリキュラム・ポリシーに掲げる「柔道整復の専門知識を学び、論理的思考を養う」ことを目的として、下記の到達目標をあげる。 国家試験出題基準の本科目該当範囲において、基礎を固めて応用力を高め、合格の基準に達すると同時に、臨床現場で必要となる能力を身につける。
計画・内容	第1回 ガイダンス 前腕骨近位部の骨折 -橈骨近位端部骨折（特徴・発生機序など） 第2回 前腕骨近位部の骨折 -橈骨近位端部骨折（骨折型・症状・整復法・固定法・後療法・合併症など） 第3回 前腕骨近位部の骨折 -肘頭骨折 第4回 前腕骨骨幹部骨折 -橈骨骨幹部骨折 第5回 前腕骨骨幹部骨折 -橈・尺両骨骨幹部骨折（特徴・発生機序・転位など） 第6回 前腕骨骨幹部骨折 -橈・尺両骨骨幹部骨折（症状など） 第7回 前腕骨骨幹部骨折 -橈・尺両骨骨幹部骨折（合併症など） -尺骨骨幹部骨折 第8回 前腕骨骨幹部骨折 -ガレアジ骨折 -モンテギア骨折（特徴・分類など）

2025年度

計画・内容	第9回 前腕骨骨幹部骨折 -モンテギア骨折（整復法・固定法・合併症など） 第10回 手関節の構造 前腕骨遠位端部骨折 -橈骨遠位端部骨折（特徴・分類） ・コーレス骨折（特徴・発生機序・症状など） 第11回 前腕骨遠位端部骨折 -橈骨遠位端部骨折 ・コーレス骨折（症状・整復法・固定法・後療法・合併症など） 第12回 前腕骨遠位端部骨折 -橈骨遠位端部骨折 ・スミス骨折 ・バートン骨折 ・橈骨遠位骨端線離開 第13回 手根骨部の骨折 第14回 中手骨部の骨折 第15回 指骨の骨折
授業の進め方	・パワーポイントを使用した授業形式で講義を行う。 ・ワークブック形式のプリントを配布して活用する。
能動的な学びの実施	・学生への質問を活発に行う予定なので、積極的な授業態度が期待される。 ・参加型の講義とするため発言による授業内でのフィードバックを行い理解力を深める。
授業時間外の学修	予習：講義予定の内容を確認し、教科書の当該箇所を熟読して、ワークブック形式のプリントのカッコ内をうめておく。 復習：配布プリントをもとに自分の講義ノートを整理する。 （合計60時間程度）
教科書・参考書	「柔道整復学・理論編」南江堂 「柔道整復学・実技編」南江堂
成績評価方法と基準	・課題レポート：20% ・期末試験：80% 期末試験の受験資格は、授業実施数の2/3以上出席している者とする。 上記の成績評価方法にて、本科目の到達目標に達しているかどうかを判定し評価する。
課題等に対するフィードバック	・学生からのコメントをもとに、授業への反映や資料配布等を行う。 ・学生の発言の都度、コメントを行う。
オフィスアワー	campus squareを参照すること。
留意事項	わからなかったことがわかるようになるということは、刺激的で楽しい経験です。 同様に、治すことができるようになるということは、大きな喜びとなります。 将来、たくさんの喜びと出会えるような学びをしていきましょう。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	Zoomによるオンライン授業 課題レポート：20%、試験日が非対面となった場合は、オンライン試験を実施：80% 試験の受験資格は、対面授業とオンライン授業の実施数の2/3以上出席している者とする。 上記の成績評価方法にて、本科目の到達目標に達しているかどうかを判定し評価する。

2025年度

科目名称	臨床整復学
授業コード	BH224
英語名称	Clinical theory of reposition by Judo 4
学期	2025年度前期
単位	1.0
担当教員	畑山 元政
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	肘部から手指部までの脱臼と軟部組織損傷の特徴・症状・治療法（整復法，固定法，後療法，指導管理）の概要を学ぶ。 肘部から手指部の脱臼と軟部組織損傷に対する柔道整復師による非観血（保存）療法の独自性の技術を後療法を中心に教授する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	柔道整復師が接骨院で行う肘部から手指部の脱臼と軟部組織損傷の施術について，長年接骨院に勤務し患者をみてきた柔道整復師が施術経験と知識を活かして講義する。
到達目標	・肘から指尖までの脱臼および軟部組織損傷に関する基本概念を理解し，その知識から適切な治療を実践できる能力を身につける。また，最新の医療技術に関心と理解を示し，専門的な研究や実践教育で開発された成果をもとに，科学的理論と伝承的医療技術を総合的に理解する能力を備えることができる。 ・ディプロマ・ポリシーに掲げる「柔道整復師に必要な医学的知識、技術および基本的技能を有している」ことを実現できるように基本的な知識を身につける。
計画・内容	第1回 ガイダンス，肘関節・前腕部の機能解剖（骨格，関節，筋） 第2回 肘関節・前腕部の機能解剖（神経，体表解剖），演習問題 第3回 肘関節の脱臼（前腕両骨脱臼，橈骨頭単独脱臼） 第4回 肘関節の脱臼（肘内障），肘関節部の軟部組織損傷（靱帯の損傷，野球肘，テニス肘） 第5回 肘関節部の軟部組織損傷（その他の疾患），前腕部の軟部組織損傷（前腕コンパートメント症候群，腱交叉症候群） 第6回 前腕部の軟部組織損傷（末梢神経障害） 第7回 理解度の確認（演習問題） 第8回 手関節・手指部の機能解剖，演習問題 第9回 手関節部の脱臼（遠位橈尺関節脱臼～月状骨脱臼），手関節部の軟部組織損傷（TFCC損傷） 第10回 手関節部の軟部組織損傷（ド・ケルバン病，末梢神経損傷） 第11回 手関節部の軟部組織損傷（キーンベック病，マーデルング変形），手根中手関節の脱臼 第12回 中手指節関節，指節間関節脱臼の脱臼（第1指中手指節関節脱臼～遠位指節間関節脱臼） 第13回 手部・指部の軟部組織損傷（腱・靱帯の損傷） 第14回 手部・指部の軟部組織損傷（その他の手指部の変性疾患および変形） 第15回 理解度の確認，まとめ
授業の進め方	教科書に沿って講義する。随時視覚教材を使用し解説していくことで，知識の研鑽を行えるよう進めていく。また，必要に応じて資料等の配布を行う。各部位の機能解剖を学び，授業の進行にあわせて損傷の特徴，発生機序，症状，治療法等について理解させる。授業内で学生への質問も行う予定なので，積極的な授業態度が期待される。 課題学修は，事前に提示された期日までに提出することを基本とする。
能動的な学びの実施	該当しない

2025年度

授業時間外の学修	予習：各回，教科書の該当箇所の通読を行うこと。(各回1時間) 復習：配布資料や授業中書き留めたメモをまとめ，独自の講義ノートを作成すること。(45時間)
教科書・参考書	公益社団法人全国柔道整復学校協会監修，公益社団法人全国柔道整復学校協会・教科書委員会編，柔道整復学・理論編改訂第7版，南江堂 / 柔道整復学・実技編改訂第2版，南江堂 / 公益社団法人全国柔道整復学校協会監修，岸 清・石塚 寛編，解剖学改訂2版，医歯薬出版株式会社 / 公益社団法人全国柔道整復学校協会監修，齋藤 宏・鴨下 博著，運動学改訂3版，医歯薬出版株式会社
成績評価方法と基準	定期試験（80％）+小テスト（20％）
課題等に対するフィードバック	小テストの答案は返却して解答解説を行う。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	本科目は柔道整復師国家試験の受験資格取得にとって必要であるため必ず履修すること。 授業の進行により内容が変更されることもあるので留意すること。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 Zoomによるオンライン授業と課題学修を組み合わせる。 成績評価方法と基準 授業中の課題60％と期末テスト40％で評価する。

2025年度

科目名称	臨床整復学
授業コード	BH280
英語名称	Clinical theory of reposition by Judo 5
学期	2025年度後期
単位	1.0
担当教員	小黒 正幸
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	柔道整復領域で使用する物理療法機器等の原理、その作用機序等を学び、その適切な取扱いに関する知識、禁忌、臨床での事例などを、教授します。そのために必要な解剖学的な知識、理論についても随時補足していきます。
科目に関連する実務経験と授業への活用	整形外科医院、接骨院での10年以上の臨床実務経験を活かして、様々な物理療法の使い方や、組み合わせたの使用法などを具体的に教授するとともに、実際に体験してきたエピソードを用いて、禁忌など命に係わる重要事項を記憶に残しやすくする授業を展開し、教授します。また、心身の相関や痛みなど、物理療法に関する重要な知識を併せて学びます。
到達目標	ディプロマポリシーに掲げる「柔道整復師に必要な医学的知識・技術および基本的技能を有している」者になるため、最新の研究や科学的理論を学びながら、伝承的医療技術や臨床経験を取り入れることにより、物理療法と身体に関する知識を総合的に理解する能力を身につけるとともに、確かな知識に裏付けられた創造的な思考力、実践力の獲得を目標とします。
計画・内容	1) 講義の進め方と勉強方法などの説明、物理療法の定義と目的 復習：配布資料のまとめ、教科書の確認 2) 物理療法と医療倫理 予習・復習：痛み、こころ、からだ、いのちについての文献を熟読 3) 痛みの定義とその伝導路（痛みとその伝わり方の理解） 予習・復習：配布資料および解剖学の該当箇所の予習・復習 4) 痛みの定義とその伝導路（脊髄と脊椎の解剖） 予習・復習：配布資料および解剖学の該当箇所の予習・復習 5) 物理療法の分類と安全対策 予習・復習：配布資料のまとめ、教科書の確認 6) 電気療法 原理と効果 予習・復習：配布資料のまとめ、教科書の確認 7) 電気療法 種類と安全対策 予習・復習：配布資料のまとめ、教科書の確認 8) 物理療法の実際（電気療法・実技） グループワーク制で、人数制限により課題授業を併用する。 予習・復習：これまでのすべての復習。 9) 物理療法の実際（電気療法・実技） グループワーク制で、人数制限により課題授業を併用する。 予習・復習：これまでのすべての復習。 10) 物理療法の実際（電気療法・実技） グループワーク制で、人数制限により課題授業を併用する。 予習・復習：これまでのすべての復習。 11) 温熱療法 原理と効果 予習・復習：配布資料のまとめ、教科書の確認 12) 温熱療法 種類と安全対策

2025年度

計画・内容	予習・復習：配布資料のまとめ、教科書の確認 13) 光線療法・寒冷療法 予習・復習：配布資料のまとめ、教科書の確認 14) 牽引療法、その他の物理療法 予習・復習：配布資料のまとめ、教科書の確認 15) 総まとめ 予習・復習：これまでのすべての復習。ポイント解説の確認。 ただし、オンラインによる学習となった場合には、実技およびグループワーク等は不可能であるため、他の講義と置き換える場合がある。 その際には事前に通知する。
授業の進め方	講義は、主にプリントとパワーポイントを使用した授業形式で、映像資料などを活用して学生の理解を深めます。また、物理療法機器の取り扱いにおいては、臨床実習、と関連させて、理論的な知識と、実践における知識の結合・融合を図ります。さらに、実際に理論と実感を融合させるためのグループワークと、命にかかわる医療関係者を目指す者としての自己学習を実施します。 オンライン学習においては、事前に資料を掲示し、オンライン講義をし、その後にレポート提出することを基本として進めていきます。課題学習を併用します。 オンライン学習における出席は提出物および、オンライン授業の出席を総合して判断します。
能動的な学びの実施	映像やプリントでの学習後、体験学修として実際の物理療法機器に触れ、教員の指導、操作のもとに効果を体験し、理論を具現化することによって、知識の効率的な吸収を図ります。 また、一部の学習においては、命題について文献の引用法や文章の構成を学びつつ、自ら調べ、答えを見つけていく時間を作ります。 オンライン学習の場合も、レポートにおいて能動的かつ自発的な学習を推薦し、評価します。
授業時間外の学修	本講義においては、復習が重要と考えます。予習は、復習の意味を含め、前回の講義で配布された資料の講義済みのところから、これから講義するところまで目を通しておいください。復習は、小テスト対策も含め、ポイントとなるところを中心に自分なりにまとめておくことを勧めます（各回合計1時間程度）。 オンライン学習においては、オンライン講義後の復習、項目ごとの確認小テストの予習復習を強く推薦します。
教科書・参考書	「柔道整復学・理論編（改訂第7版）」南江堂
成績評価方法と基準	定期試験の成績（80％）、出席、レポート、小テストを含む平常点（20％）にて評価します。 試験に関しては、教授範囲内の物理療法およびその作用機序（解剖学的知識、実践的知識を含む）に関する客観式試験（出題形式は柔道整復師国家試験に準じ、マークシート方式）とする。 ただし、オンライン学習においては、講義レポートの評価（出席を含む）（50％）、定期テスト（50％）とする。 定期テストの公正な実施が難しい場合には、出席および確認小テスト等の平常点（20％）とレポート評価（80％）に変更とする。
課題等に対するフィードバック	小テストの答案およびレポートは返却し、授業内で解説・総評を行います。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	柔道整復師国家試験資格取得に必須の科目。 また臨床実習、に関連する。 解剖学における感覚神経の伝導路を各自復習しておくことが望ましい。 必修科目であるため、必ず第1回目の授業から履修登録の上、出席のこと。
非対面授業となった場合の「授業の進め	オンライン学習においては、事前に資料を掲示し、オンライン講義をし、その後にレポート提出することを基本として進めていきます。課題学習を併用します。

2025年度

方」および「成績評価方法と基準」	オンライン学習における出席は提出物および、オンライン授業の出席を総合して判断します。 オンライン学習においては、講義レポートおよび提出物の評価（出席を含む）（50％）、定期テスト（50％）とする。 ただし定期テストの公正な実施が難しい場合には、出席および確認小テスト等の平常点（20％）とレポート評価（80％）に変更とする。
-------------------------	---

2025年度

科目名称	臨床整復学
授業コード	BH227
英語名称	Clinical theory of reposition by Judo 6
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	小黒 正幸
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	臨床現場において、下記 ～ を主とする各部の疾患・外傷に遭遇した際に、的確に対応するための判断能力、整復、固定などの臨床的知識、および予後を良好にするための処置や判断ができる能力の獲得を目的とします。 頭部・顔面部の損傷および顎関節脱臼 頸部の損傷および頸椎の骨折・脱臼 肋骨骨折・胸骨骨折 胸腰部の損傷および椎体の骨折・脱臼 骨盤部の損傷および骨盤骨骨折 股関節脱臼 大腿部の損傷および頸部骨折・骨幹部骨折など。 また頭部、脊椎の損傷は、危険症、あるいは禁忌症として慎重に扱うべき重大な損傷であることを認識し、柔道整復師として施術可能な範囲の修得、鑑別すべき疾患を学びます。
科目に関連する実務経験と授業への活用	整形外科、接骨院における10年以上の臨床経験に基づき、各項目に対し、実際の症例を用いて具体的な説明をするとともに、実体験のエピソードを交えて記憶への定着を図ります。
到達目標	頭部、顔面、胸部、脊椎、骨盤部および大腿部の各疾患・外傷の診断法、応急処置、治療法、後療法、合併症、施術範囲に関する知識を適切に活用できることを目標とします。 知識をもとにした論理的思考能力により、患者の状態を的確に判断し、施術範囲を守り、適切な治療を行うことができる知識の修得を目標とします。 また、同範囲の疾患と外傷における国家試験水準の知識を習得するとともに、臨床への応用力を両立することができる能力の獲得を目標とします。 また、古来より現代まで柔道整復医療に脈々として生きている伝承的（経験的）医療を学ぶとともに、最新知識、最新医学までの多角的な知識を修得することを目標とします。 これらを総合し、ディプロマポリシーにある「人々の健康および柔道整復の発展に貢献しうる主体的な学修能力を身につける」ことを最終目標とします。
計画・内容	1) 頭部・顔面の損傷（頭蓋骨骨折） 予習：頭蓋骨骨折の特徴について 復習：頭蓋骨骨折の特徴について 2) 頭部・顔面の損傷 （眼窩底破裂骨折、上顎骨骨折、頬骨骨折、鼻骨骨折、下顎骨骨折） 予習：眼窩底破裂、上顎骨、頬骨、鼻骨、下顎骨の各骨折の特徴について 復習：眼窩底破裂、上顎骨、頬骨、鼻骨、下顎骨の各骨折の特徴について 3) 脊椎の骨折 頸椎骨折 予習：頸部の解剖と外傷について 復習：頸椎骨折の症状について 4) 脊椎の骨折 胸椎骨折・腰椎骨折 予習：胸腰椎の骨折について 復習：胸腰椎の骨折の症状について 5) 胸部の骨折 肋骨骨折および合併症 予習：肋骨骨折、合併症について 復習：肋骨骨折、合併症について 6) 胸部の骨折 肋軟骨骨折、胸骨骨折 予習：肋軟骨骨折、胸骨骨折の症状について 復習：胸部の骨折のまとめ 7) 骨盤骨骨折 胸腰椎骨折・脱臼・腰背部の確認テスト 予習：骨盤骨の解剖と外傷について 復習：骨盤骨骨折の特徴について 8) 大腿骨骨折

計画・内容	予習：大腿骨の解剖と外傷について 復習：大腿骨近位部骨折の特徴について 9) 大腿骨近位部骨折 予習：大腿骨近位部骨折の特徴について 復習：大腿骨近位部骨折の処置について 10) 大腿骨骨幹部骨折 予習：大腿骨骨幹部骨折の特徴について 復習：大腿骨骨幹部骨折の処置について 11) 顎関節脱臼・脊椎の脱臼 頭蓋骨・顔面骨骨折の確認テスト 予習：顎関節と脊椎の脱臼について 復習：顎関節脱臼の特徴、分類、症状について 復習：頸椎・胸椎の脱臼について 12) 股関節脱臼 大腿骨近位部骨折の確認テスト、 予習：股関節の解剖と外傷について 復習：股関節脱臼の症状について 13) 頭部・体幹部の軟部組織損傷 予習：顎関節捻挫、頭部・顔面部の軟部組織損傷、顎関節症の特徴について 復習：頭部・体幹部の軟部組織損傷についてのまとめ 14) 股関節部・大腿部の軟部組織損傷 予習：股関節部・大腿部の損傷について 復習：股関節部の損傷まとめ 15) 大腿部の損傷と疾患 予習：大腿部の損傷と疾患について 復習：大腿部の損傷総まとめ
授業の進め方	講義は指定教科書を中心に解説し、疾患・外傷を理解するための解剖学的知識を補足しながら進めます。スライドやプリントなどを活用し、書くことだけにとらわれず、「聞く」「考える」の時間を確保します。各項目の講義後に指定した範囲から10～20問程度の確認テストを実施し、国家試験対策とともに理解度の確認をします。確認テストは解説を行います。出席は必ず確認します。 オンライン学習においては、事前に資料を掲示し、オンライン講義後にレポート提出をすることを基本として進めていきます。課題学習を併用します。 双方向性の担保として、レポートの総評と解説、質疑応答集を事後に掲示します。 オンライン学習における出席は提出物および、資料のダウンロード状況、オンライン授業の出席を総合して判断します。
能動的な学びの実施	一方的な確認テストをするだけでなく、教授した分野の実際の症例について提示し、学生自身が対処を考えていくといった自発的な学習も取り入れて学んでいきます。 オンライン学習の際には、必要に応じて配布する評価基準に示すように、能動的かつ自発的な学習を推薦し、評価します。
授業時間外の学修	予習、復習は、各回に明示してあるテーマに従う。（合計60時間程度） オンライン学習においては、オンライン講義後のレポート提出、誤答・質疑応答集の参照、項目ごとの確認小テストの予習復習を強く推薦する。
教科書・参考書	「柔道整復学・理論編（改訂第7版）」南江堂
成績評価方法と基準	定期試験の成績（90％）、単元ごとの確認テスト（10％）にて評価する。 定期試験に関しては、教授した範囲に関する客観式試験（難易度および出題形式は柔道整復師国家試験に準ずる）とする。 ただし、オンライン学習においては、オンライン講義のレポート評価 出席点を含む（50％）、確認小テスト（20％）、定期テスト（30％）とするが、定期テストの公正な実施が難しい場合には、オンライン講義のレポート評価を80％とする。
課題等に対するフィードバック	確認小テストは、授業内で解説を行います。 オンライン学習においては、オンラインテストとし、点数の明示と解説をオンライン講義内にて行う。
オフィスアワー	CampusSquareを参照

2025年度

留意事項	柔道整復師国家試験資格取得に必須の科目。基礎整復学 、 、 に関連する。 必修科目であるため、必ず第1回目の授業から履修登録の上、出席のこと。 新型コロナウイルス等の感染症に伴う非対面講義および課題学習の影響、また教科書改変の影響などで、教授予定の範囲が終了できない場合は別に時間を設けて補うものとする。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	オンライン学習においては、事前に資料を掲示し、オンライン講義後にレポート提出をすることを基本として進めていきます。課題学習を併用します。 双方向性の担保として、レポートの総評と解説、質疑応答集を事後に掲示します。 オンライン学習における出席は提出物および、資料のダウンロード状況、オンライン授業の出席を総合して判断します。 オンライン学習においては、オンライン講義のレポート評価 出席点を含む（50％）、確認小テスト（20％）、定期テスト（30％）とするが、定期テストの公正な実施が難しい場合には、オンライン講義のレポート評価を80％とする。

2025年度

科目名称	臨床整復学
授業コード	BH314
英語名称	Clinical theory of reposition by Judo 7
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	浅木 健治
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	・下腿骨上端部から足趾までの骨折，脱臼，軟部組織損傷について学習する ・国家試験の出題問題なども適宜例に挙げ進めていくとともに臨床的に重要となる概念についても教授する
科目に関連する実務経験と授業への活用	・柔道整復師としての接骨院にて臨床経験のある教員が 下腿骨上端部から足趾までの骨折，脱臼，軟部組織損傷について講義する
到達目標	・本科目は，ディプロマ・ポリシーの【 柔道整復師に必要な医学的知識・技術および基本的技能を有している 】を達成するために必須となる科目である ・下腿骨上端部から足趾までの骨折，脱臼，軟部組織損傷において診察・整復・固定・後療法の概要の理解と知識の習得を目標とする
計画・内容	1) 膝蓋骨骨折 （分類） 2) 膝蓋骨骨折 （発生機序～合併症） 3) 下腿骨近位端部骨折 4) 下腿骨骨幹部骨折 5) 下腿骨遠位端部骨折 6) 足根骨骨折 7) 中足骨・足趾骨骨折 8) 中足部・足趾部脱臼 9) 膝関節軟部組織損傷 （小児の膝変形～半月板損傷） 10) 膝関節軟部組織損傷 （側副靱帯損傷～変形性膝関節症） 11) 下腿部軟部組織損傷 （コンパートメント症候群～アキレス腱断裂） 12) 下腿部軟部組織損傷 （腓骨筋腱脱臼～過労性脛骨部痛） 13) 足部軟部組織損傷 （足関節捻挫～扁平足障害）

2025年度

計画・内容	14) 足部軟部組織損傷（セーバー病～モートン病） 15) 総括
授業の進め方	・配布プリントおよび教科書にて講義内容の理解 ・各講義ごとに確認問題を実施し理解度を確認
能動的な学びの実施	・該当なし
授業時間外の学修	・予習：次回講義該当箇所の教科書および配布プリントの通読 ・復習：実施した講義回の確認問題の反復学習およびプリント整理（各回1～2時間）
教科書・参考書	書籍名：柔道整復学・理論編 改訂第7版 ・著者／編者名：公益社団法人 全国柔道整復学校協会 ・出版社：株式会社 南江堂 ・出版年：2022年 3月 書籍名：柔道整復学・実技編 改訂第2版 ・著者／編者名：公益社団法人 全国柔道整復学校協会 ・出版社：株式会社 南江堂 ・出版年：2012年 12月
成績評価方法と基準	・定期試験（100％） 本試験のみで【再試験は実施しない】
課題等に対するフィードバック	・各講義ごとに確認問題を実施する ・講義内で解答合わせと解説を行い 学生が理解不足の箇所をすぐに確認できるようにする
オフィスアワー	・Campus Square を参照
留意事項	・出欠カードリーダーの不正利用が判明した場合は懲戒（退学，停学及び戒告）の対象となることがある ・欠席の際は【講義開始時刻までに】メール連絡すること 欠席連絡のない場合は，配布プリントの確保はしない
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	Zoomによるオンライン授業 授業動画配信によるオンデマンド授業 課題学修 のいずれかを実施，または複数を組み合わせて実施する 定期試験（100％） 対面試験が実施できない場合は それに代わる非対面試験で評価する

2025年度

科目名称	臨床整復学
授業コード	BH412
英語名称	Clinical theory of reposition by Judo 8
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	渡會 公治, 戸部 悠紀
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	柔道整復師は医療人の一員であり、開業権を有しており、免許取得後、開業する者も一定数いることから、柔道整復師が業務を行うに当たり、対象となる運動器疾患が業務範囲にあるかどうかを適切に判断し、柔道整復術を適切に実施できる能力を身に付けることが必要となる。また、安全に柔道整復術を提供するため、医用画像を理解するためのカリキュラムを追加するとされた。 教科書の後半、医用画像の理解を中心に画像になれることをめざす。
科目に関連する実務経験と授業への活用	医用画像を理解するためのカリキュラムのなかで渡會は50年の整形外科医師としての経験から、X線画像、CT,MRIについて解説講義する。また、適宜、柔道整復師が医療現場及び地域医療の現場に立ってどのように行動管理するか、やってはいけないことは何か。この知識を教授する。 戸部は柔道整復師の立場として医療者の一員としてスポーツ外傷の救護現場に参加してその中で柔道整復師の立場を教授する。画像診断としては超音波について講義する
到達目標	柔道整復師が医療現場及び地域医療の現場に立ってどのように行動管理するか、やってはいけないことは何かを理解する。安全に柔道整復術を提供するため、医用画像を理解するためのカリキュラムを理解する。
計画・内容	【第1回】(渡會・戸部)ガイダンス 授業内容と方針の説明(オリエンテーション) 【第2回】(渡會)なぜ画像診断を学ぶのか?絵を描くのか? 【第3回】(渡會)X線の基礎知識 【第4回】(渡會)CTの基礎知識 【第5回】(渡會)MRIの基礎知識 【第6回】(渡會)核医学の基礎知識 【第7回】(渡會)身体各部位の画像 【第8回】(渡會)身体各部位の画像 【第9回】(戸部)超音波画像の基礎知識 【第10回】(戸部)超音波画像の実際 【第11回】(戸部)超音波画像の実際 【第12回】(戸部)超音波画像の実際 【第13回】(戸部)超音波画像の実際 【第14回】(戸部)接骨院で注意すべき損傷 【第15回】(渡會)(戸部)まとめ(理解度の確認、総括)
授業の進め方	渡會の授業では、当日のテーマに関する質問をWebclassで予め提示し、教科書、インターネットの情報を紹介しながら行う。意見、感想、疑問を求める。発言の機会がない学生のいるため、全員の意見、感想、疑問をリスパンスシートに毎回、記述する。次回の授業の中で討議する。主体的に参加することを求める。随時小テストを実施する 教科書を中心に進め、当日の復習で大事な箇所をまとめる。 画像で大事なものは身体各部位の解剖学的イメージである。そのために、絵を描く技術が求められる。基本の直線を描く、立方体を描く、球を描くことを行う

2025年度

能動的な学びの実施	意見、感想、疑問をリスponsシートに毎回、記述する。次回の授業の中で討議する。主体的に参加することを求める。
授業時間外の学修	予習・復習を計60時間以上行うこと（テーマについて、一時間程度は各自教科書を見て、インターネットで情報を調べ自分の講義ノートを整理すること）
教科書・参考書	施術の適応と医用画像の理解
成績評価方法と基準	期末テスト 40 % リスponsシート、小テスト $15 \times 4 = 60$ 60 %
課題等に対するフィードバック	小テスト、リアクションペーパーは次の時間にフィードバックを行う
オフィスアワー	campus square 参照
留意事項	他の授業「職業倫理及び関係法規、整形外科」とも関連する
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 webclassとの併用で授業を進める。 成績評価と基準 課題20%テスト80%で評価する。

2025年度

科目名称	応用整復学
授業コード	BH315
英語名称	Applied reposition by Judo 1
学期	2025年度前期
単位	1.0
担当教員	佐藤 光浩
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	本講義では、柔道整復学上肢各論（鎖骨部・肩甲部・肩部・上腕部）について学ぶ。これまで学んできた柔道整復学上肢（鎖骨部・肩甲部・肩部・上腕部）の各論を振り返る。また、さらに詳細に臨床に則して教授する。 本講義においては、上肢の骨・筋の作用、支配神経の確認、上肢（鎖骨部・肩甲部・肩部・上腕部）の骨折、脱臼、筋腱軟部組織損傷についての症状、評価法、検査法、鑑別診断、整復法、固定法、後療法等について講義する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	整形外科（物理療法室主任）や接骨院（院長）での25年以上に及ぶ臨床経験から、実践的かつ理論的に外傷に対する症状、鑑別診断、検査法、評価法、整復法、固定法について教授する。
到達目標	ディプロマ・ポリシーに掲げる「柔道整復師に必要な医学的知識・技術および基本的技能を有している」ことを実現するために、本科目ではカリキュラム・ポリシーに掲げる「柔道整復の専門知識を学び、論理的思考を養う」ことを目的とする。 また、柔道整復学上肢各論（鎖骨部・肩甲部・肩部・上腕部）についての知識を学ぶだけでなく、国家試験に対応できるよう、応用力を身に着けることを目標とする。 また、柔道整復師として臨床の現場に出たときに、速やかに対応できるよう、臨床力の習得も目標となる。 その他、社会人・医療人として必要な生命に対する畏敬の倫理、医療倫理観を身に着け、自己を磨く熱意や意欲を積極的に発揮できるような豊かな人間性の形成を目指す。 また、協調性、自主性、倫理性を持ち、国民の健康の維持、促進、回復に貢献できる人材となることが目標となる。
計画・内容	第1回 鎖骨骨折（発生機序・症状、整復法・固定法・後療法等） 予習：教科書の鎖骨骨折の項を輪読しておくこと。（90分） 復習：今回の講義内容を各自でノートにまとめておくこと。（90分） 第2回 肩甲骨骨折（発生機序・症状、整復法・固定法・後療法等） 予習：教科書の肩甲骨骨折の項を輪読しておくこと。（90分） 復習：今回の講義内容を各自でノートにまとめておくこと。（90分） 第3回 上腕骨近端部骨折（発生機序・症状、整復法・固定法・後療法等） 予習：柔道整復学総論の上腕骨近位端部骨折の項を輪読しておくこと。（90分） 復習：今回の講義内容を各自でノートにまとめておくこと。（90分） 第4回 上腕骨骨幹部骨折（発生機序・症状、整復法・固定法・後療法等） 予習：柔道整復学総論の上腕骨骨幹部骨折の項を輪読しておくこと。（90分） 復習：今回の講義内容を各自でノートにまとめておくこと。（90分） 第5回 上腕骨遠位端部骨折（発生機序・症状、整復法・固定法・後療法等） 予習：柔道整復学総論の上腕骨遠位端部の項を輪読しておくこと。（90分）

計画・内容	復習：今回の講義内容を各自でノートにまとめておくこと。（90分） 第6回 鎖骨脱臼（発生機序・症状、整復法・固定法・後療法等） 予習：柔道整復学総論の鎖骨脱臼の項を輪読しておくこと。（90分） 復習：今回の講義内容を各自でノートにまとめておくこと。（90分） 第7回 肩関節脱臼（発生機序・症状、整復法・固定法・後療法等） 予習：柔道整復学総論の軟部組織損傷の項を輪読しておくこと。（90分） 復習：今回の講義内容を各自でノートにまとめておくこと。（90分） 第8回 肩関節部軟部組織損傷（発生機序・症状、検査法・固定法・後療法等） 予習：柔道整復理論各論の肩部軟部組織損傷の項を輪読しておくこと。（90分） 復習：今回の講義内容を各自でノートにまとめておくこと。（90分） 第9回 肩関節部軟部組織損傷（発生機序・症状、検査法・固定法・後療法等） 予習：柔道整復理論各論の肩部軟部組織損傷の項を輪読しておくこと。（90分） 復習：今回の講義内容を各自でノートにまとめておくこと。（90分） 第10回 上腕部軟部組織損傷（発生機序・症状、検査法・固定法・後療法等） 予習：柔道整復理論各論の上腕部軟部組織損傷の項を輪読しておくこと。（90分） 復習：今回の講義内容を各自でノートにまとめておくこと。（90分） 第11回 上腕部軟部組織損傷（発生機序・症状、検査法・固定法・後療法等） 予習：柔道整復理論各論の上腕部軟部組織損傷の項を輪読しておくこと。（90分） 復習：今回の講義内容を各自でノートにまとめておくこと。（90分） 第12回 柔道整復学総論概要（手技・物理・運動療法・施術録・業務範囲を含む） 予習：柔道整復学・理論編の総論を熟読すること。（90分） 復習：今回の講義内容を各自でノートにまとめておくこと。（90分） 第13回 上肢の骨・筋の作用と支配神経 予習：解剖学の教科書、骨・筋の項を輪読しておくこと。（90分） 復習：今回の講義内容を各自でノートにまとめておくこと。（90分） 第14回 復習と確認試験 予習：前回までの授業ノートを見直しておくこと。（90分） 復習：今回の試験内容を各自でノートにまとめておくこと。（90分） 第15回 確認試験の解答解説と総まとめ 予習：前期の授業ノートを見直しておくこと。（90分） 復習：今回の講義内容を各自でノートにまとめておくこと。（90分）
授業の進め方	柔道整復学・理論編を用い、 パワーポイント、板書等により講義を進める。 資料をWebClassにupする。
能動的な学びの実施	学生への質問も活発に行う。 学んだ知識を臨床現場において どのように活かすのかについて、 グループディスカッションを行う。 定期的に自己学習用課題を配布する。 課題は指定期日までに提出すること。 積極的な授業態度が期待される。
授業時間外の学修	各回、授業前学習として教科書の該当箇所を 読み込み、輪読しておくこと。疑問点はノートにまとめておくこと。（90分） 復習は、授業で行った内容をまとめること。（90分） 授業時間外学習として、予習（90分）、復習（90分）を 各回（15回）行うこと。 （1回3時間を15回で計45時間程） 理解の届かないところに関してはノートにまとめ、 次回の授業前に質問すること。この質問事項と 説明は授業内に受講者全員にフィードバックする。 なお、質問は学内メールでも随時受け付ける。

2025年度

授業時間外の学修	WebClassに各外傷別にまとめた国家試験過去問題をupする。 upされたら次回の講義までにダウンロードし、各自問題を解いておくこと。
教科書・参考書	使用する教科書 柔道整復学・理論編（南江堂） 参考書（資料作成の際、参考にしているもの） 今日の整形外科治療指針（医学書院） 標準整形外科学（医学書院） 整形外科クルズス（南江堂） 図説骨折・脱臼の管理1・2（廣川書店） 神中整形外科学上巻・下巻（南山堂） クリニカル・レクチャー 柔道整復 実践技術（メジカルビュー社）
成績評価方法と基準	評価は、期末試験（100％）による。 期末試験は正答率60％以上を合格とする。 期末試験の受験資格は、出席条件をクリアしている者とする（全15回のうち2/3以上の授業出席者）。
課題等に対するフィードバック	リアクションペーパーは、次回授業開始時にフィードバックを行う。 学生からのコメントペーパーの内容をもとに、授業への反映や資料配布等を行う。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	私語を慎み、他の学生の迷惑にならないよう授業に臨むこと。 シラバスを確認し、予習・復習を行うこと。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	非対面授業となった場合の「授業の進め方」 課題提出型授業とzoomによるオンライン授業の併用。 成績評価方法 期末試験結果をもって成績評価を行う。 出席要件をクリアした後、期末試験を行う。 期末試験は、大学のキャンパススクエアの課題提出項目を使用する。 決められた時間内に試験問題を解き、 決められた時間内に解答を提出する。 正答率60％以上を合格とする。 * 純粋な試験時間は60分。 パソコン操作時間（ダウンロード、提出操作等）を考慮し、10分プラスするため、 実際の試験時間は70分とする。

2025年度

科目名称	応用整復学
授業コード	BH316
英語名称	Applied reposition by Judo 2
学期	2025年度前期
単位	1.0
担当教員	金島 裕樹
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	「骨折」や「脱臼」等について、全体の大要を学習する総論に対して、本科目は各論である。前腕骨の骨折・肘関節の脱臼・肘関節部および前腕部の軟部組織損傷について学習する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	全国柔道整復学校協会の教科書委員を7年間つとめてきた経験を活かして、各部位の骨折・脱臼・軟部組織損傷について理論的に講義する。 同時に、整形外科の勤務経験と整骨院院長としての経験を活かして、臨床現場に活かせる知識と技術を教授する。
到達目標	ディプロマ・ポリシーに掲げる「柔道整復師に必要な医学的知識・技術および基本的技能を有している」ことを獲得するため、カリキュラム・ポリシーに掲げる「柔道整復の専門知識を学び、論理的思考を養う」ことを目的として、下記の到達目標をあげる。 国家試験出題基準の本科目該当範囲において、基礎を固めて応用力を高め、合格の基準に達すると同時に、臨床現場で必要となる能力を身につける。
計画・内容	第1回 ガイダンス 前腕骨近位部の骨折 -橈骨近位端部骨折（特徴・発生機序など） 第2回 前腕骨近位部の骨折 -橈骨近位端部骨折（骨折型・症状・整復法・固定法・後療法・合併症など） 第3回 前腕骨近位部の骨折 -肘頭骨折 第4回 前腕骨骨幹部骨折 -橈骨骨幹部骨折 第5回 前腕骨骨幹部骨折 -橈・尺両骨骨幹部骨折（特徴・発生機序・転位など） 第6回 前腕骨骨幹部骨折 -橈・尺両骨骨幹部骨折（症状など） 第7回 前腕骨骨幹部骨折 -橈・尺両骨骨幹部骨折（合併症など） -尺骨骨幹部骨折 第8回 前腕骨骨幹部骨折 -ガレアジ骨折 -モンテギア骨折（特徴・分類など）

計画・内容	第9回 前腕骨骨幹部骨折 -モンテギア骨折（整復法・固定法・合併症など） 第10回 手関節の構造 前腕骨遠位端部骨折 -橈骨遠位端部骨折（特徴・分類） ・コーレス骨折（特徴・発生機序・症状など） 第11回 前腕骨遠位端部骨折 -橈骨遠位端部骨折 ・コーレス骨折（症状・整復法・固定法・後療法・合併症など） 第12回 前腕骨遠位端部骨折 -橈骨遠位端部骨折 ・スミス骨折 ・バートン骨折 ・橈骨遠位骨端線離開 第13回 肘関節の脱臼 -前腕両骨脱臼 第14回 肘関節の脱臼 -橈骨頭単独脱臼 -肘内障 第15回 肘関節部の軟部組織損傷 前腕部の軟部組織損傷
授業の進め方	・パワーポイントを使用した授業形式で講義を行う。 ・ワークブック形式のプリントを配布して活用する。
能動的な学びの実施	・学生への質問を活発に行う予定なので、積極的な授業態度が期待される。 ・参加型の講義とするため発言による授業内でのフィードバックを行い理解力を深める。
授業時間外の学修	予習：講義予定の内容を確認し、教科書の当該箇所を熟読して、ワークブック形式のプリントのカッコ内をうめておく。 復習：配布プリントをもとに自分の講義ノートを整理する。 （合計60時間程度）
教科書・参考書	「柔道整復学・理論編」南江堂 「柔道整復学・実技編」南江堂
成績評価方法と基準	・課題レポート：20% ・期末試験：80% 期末試験の受験資格は、授業実施数の2/3以上出席している者とする。 上記の成績評価方法にて、本科目の到達目標に達しているかどうかを判定し評価する。
課題等に対するフィードバック	・学生からのコメントをもとに、授業への反映や資料配布等を行う。 ・学生の発言の都度、コメントを行う。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	わからなかったことがわかるようになるということは、刺激的で楽しい経験です。 同様に、治すことができるようになるということは、大きな喜びとなります。 将来、沢山の喜びと出会うように、常に知的好奇心を持ちながら、多様な学びにより視野を広げ柔軟な思考力を養いましょう。
非対面授業となった場合の「授業の進め	Zoomによるオンライン授業 課題レポート：20%、試験日が非対面となった場合は、オンライン試験を実施：80%

2025年度

方」および「成績評価方法と基準」	試験の受験資格は、対面授業とオンライン授業の実施数の2/3以上出席している者とする。 上記の成績評価方法にて、本科目の到達目標に達しているかどうかを判定し評価する。
------------------	---

2025年度

科目名称	応用整復学
授業コード	BH358
英語名称	Applied reposition by Judo 3
学期	2025年度後期
単位	1.0
担当教員	佐藤 光浩
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	本講義では、柔道整復学上肢各論（手関節部・手部）について学ぶ。 これまで学んできた柔道整復学上肢（手関節部・手部）の各論を振り返る。 また、さらに詳細に深く教授する。 柔道整復師の扱う外傷には、直接いのちに係わる症例は少ないが、 時として、誤った判断によってその後の患者の日常生活を脅かすことがある。 例えば、初期判断の誤りや外傷後の不十分な施術により 機能障害が残存すればADLに問題を残す。 柔道整復師として、これらの点を常に念頭に置き施術するためにも、 身体的作用、生理的作用、外傷、一般臨床医学、鑑別診断、整復法、固定法、後療法等に対する知識を高めなければならない。 また、実践に学んだことを臨床現場で活かすことができなければならない。 本講義においては、上肢の骨・筋の作用、支配神経の確認、 上肢（手関節部・手部）の骨折、脱臼、筋腱軟部組織損傷についての症状、評価法、検査法、鑑別診断、整復法、固定法、後療法等について講義する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	整形外科（物理療法室主任）や接骨院（院長）での25年以上に及ぶ臨床経験から、 実践的かつ理論的に外傷に対する症状、鑑別診断、検査法、 評価法、整復法、固定法について教授する。
到達目標	ディプロマ・ポリシーに掲げる「柔道整復師に必要な医学的知識・技術および基本的技能を有している」ことを実現するために、本科目ではカリキュラム・ポリシーに掲げる「柔道整復の専門知識を学び、論理的思考を養う」ことを目的とする。 また、柔道整復学上肢各論（手関節部・手部）についての知識を学ぶだけでなく、 国家試験に対応できるよう、応用力を身に着けることを目標とする。 また、柔道整復師として臨床の現場に出たときに、 速やかに対応できるよう、臨床力の習得も目標となる。 その他、社会人・医療人として必要な生命に対する畏敬の倫理、医療倫理観を身に着け、 自己を磨く熱意や意欲を積極的に発揮できるような豊かな人間性の形成を目指す。 また、協調性、自主性、倫理性を持ち、国民の健康の維持、促進、回復に貢献できる人材となることが目標となる。
計画・内容	第1回 手根骨骨折（発生機序・症状、整復法・固定法・後療法等） 予習：教科書の手根骨骨折の項を輪読しておくこと。（90分） 復習：今回の講義内容を各自でノートにまとめておくこと。（90分） 「担当教員 佐藤（柔道整復師）」 第2回 手根骨骨折（発生機序・症状、整復法・固定法・後療法等） 予習：教科書の手根骨骨折の項を輪読しておくこと。（90分） 復習：今回の講義内容を各自でノートにまとめておくこと。（90分） 「担当教員 佐藤（柔道整復師）」

計画・内容	第3回 中手骨骨折（発生機序・症状、整復法・固定法・後療法等） 予習：教科書の中手骨骨折の項を輪読しておくこと。（90分） 復習：今回の講義内容を各自でノートにまとめておくこと。（90分） 「担当教員 佐藤（柔道整復師）」 第4回 中手骨骨折（発生機序・症状、整復法・固定法・後療法等） 予習：教科書の中手骨骨折の項を輪読しておくこと。（90分） 復習：今回の講義内容を各自でノートにまとめておくこと。（90分） 「担当教員 佐藤（柔道整復師）」 第5回 手指骨骨折（発生機序・症状、整復法・固定法・後療法等） 予習：教科書的手指骨骨折の項を輪読しておくこと。（90分） 復習：今回の講義内容を各自でノートにまとめておくこと。（90分） 「担当教員 佐藤（柔道整復師）」 第6回 手指骨骨折（発生機序・症状、整復法・固定法・後療法等） 予習：教科書的手指骨骨折の項を輪読しておくこと。（90分） 復習：今回の講義内容を各自でノートにまとめておくこと。（90分） 「担当教員 佐藤（柔道整復師）」 第7回 手根骨脱臼（発生機序・症状、検査法・固定法・後療法等） 予習：教科書の肘関節部の軟部組織損傷の項を輪読しておくこと。（90分） 復習：今回の講義内容を各自でノートにまとめておくこと。（90分） 「担当教員 佐藤（柔道整復師）」 第8回 中手骨脱臼（発生機序・症状、検査法・固定法・後療法等） 予習：教科書の肘関節部の軟部組織損傷の項を輪読しておくこと。（90分） 復習：今回の講義内容を各自でノートにまとめておくこと。（90分） 「担当教員 佐藤（柔道整復師）」 第9回 手指骨脱臼（発生機序・症状、検査法・固定法・後療法等） 予習：教科書の肘関節部の軟部組織損傷の項を輪読しておくこと。（90分） 復習：今回の講義内容を各自でノートにまとめておくこと。（90分） 「担当教員 佐藤（柔道整復師）」 第10回 手関節部の軟部組織損傷（発生機序・症状、検査法・固定法・後療法等） 予習：教科書の肘関節部の軟部組織損傷の項を輪読しておくこと。（90分） 復習：今回の講義内容を各自でノートにまとめておくこと。（90分） 「担当教員 佐藤（柔道整復師）」 第11回 手関節部の軟部組織損傷（発生機序・症状、検査法・固定法・後療法等） 予習：教科書の肘関節部の軟部組織損傷の項を輪読しておくこと。（90分） 復習：今回の講義内容を各自でノートにまとめておくこと。（90分） 「担当教員 佐藤（柔道整復師）」 第12回 柔道整復学総論概要（手技・物理・運動療法・施術録・業務範囲を含む） （応用整復学 ・ で学んだ知識の確認） 予習：柔道整復学・理論編の総論を熟読すること。（90分） 復習：今回の講義内容を各自でノートにまとめておくこと。（90分） 「担当教員 佐藤（柔道整復師）」 第13回 上肢の骨・筋の作用と支配神経（応用整復学 ・ で学んだ知識の確認） 予習：解剖学の教科書、骨・筋の項を輪読しておくこと。（90分） 復習：今回の講義内容を各自でノートにまとめておくこと。（90分） 「担当教員 佐藤（柔道整復師）」 第14回 復習と確認テスト 予習：前回までの授業ノートを見直しておくこと。（90分） 復習：今回の講義内容を各自でノートにまとめておくこと。（90分） 「担当教員 佐藤（柔道整復師）」 第15回 確認試験の解答解説と総まとめ 予習：前回までの授業ノートを見直しておくこと。（90分） 復習：今回の講義内容を各自でノートにまとめておくこと。（90分） 「担当教員 佐藤（柔道整復師）」
授業の進め方	柔道整復学・理論編を用い、 パワーポイント、板書等により講義を進める。 資料をWebClassにupする。

2025年度

授業の進め方	
能動的な学びの実施	学生への質問も活発に行う。 学んだ知識を臨床現場においてどのように活かすのかについて、グループディスカッションを行う。 定期的に自己学習用課題を配布する。 課題は指定期日までに提出すること。 積極的な授業態度が期待される。
授業時間外の学修	各回、授業前学習として教科書の該当箇所を読み込み、輪読しておくこと。疑問点はノートにまとめておくこと。（90分） 復習は、授業で行った内容をまとめること。（90分） 授業時間外学習として、予習（90分）、復習（90分）を各回（15回）行うこと。（1回3時間を15回で計45時間程） 理解の届かないところに関してはノートにまとめ、次の授業前に質問すること。この質問事項と説明は授業内に受講者全員にフィードバックする。 なお、質問は学内メールでも随時受け付ける。 WebClassに各外傷別にまとめた国家試験過去問題をupする。 upされたら次の講義までにダウンロードし、各自問題を解いておくこと。
教科書・参考書	使用する教科書 柔道整復学・理論編（南江堂） 参考書（資料作成の際、参考にしているもの） 今日の整形外科治療指針（医学書院） 標準整形外科学（医学書院） 整形外科クルズス（南江堂） 図説骨折・脱臼の管理1・2（廣川書店） 神中整形外科学上巻・下巻（南山堂） クリニカル・レクチャー 柔道整復 実践技術（メジカルビュー社）
成績評価方法と基準	評価は、期末試験（100%）による。 期末試験は正答率60%以上を合格とする。 期末試験の受験資格は、出席条件をクリアしている者とする（全15回のうち2/3以上の授業出席者）。
課題等に対するフィードバック	リアクションペーパーは、次回授業開始時にフィードバックを行う。 学生からのコメントペーパーの内容をもとに、授業への反映や資料配布等を行う。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	私語を慎み、他の学生の迷惑にならないよう授業に臨むこと。 シラバスを確認し、予習・復習を行うこと。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	非対面授業となった場合の「授業の進め方」 課題提出型授業とzoomによるオンライン授業の併用。 成績評価方法 期末試験結果をもって成績評価を行う。 出席要件のクリア後、期末試験を行う。 期末試験は、大学のキャンパススクエアの課題提出項目を使用する。 決められた時間内に試験問題を解き、決められた時間内に解答を提出する。 正答率60%以上を合格とする。 * 純粋な試験時間は60分。 パソコン操作時間（ダウンロード、提出操作等）を考慮し、10分プラスするため、

2025年度

非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	実際の試験時間は70分とする。
------------------------------------	-----------------

2025年度

科目名称	応用整復学
授業コード	BH359
英語名称	Applied reposition by Judo 4
学期	2025年度後期
単位	1.0
担当教員	戸部 悠紀
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	柔道整復理論の既習範囲を中心に、基礎学習として重要な解剖・生理学などの他科目を含め、各科目との関連性・考え方を深化させ、柔道整復師に必要な知識の習得を図る講義を実践する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	各種スポーツの救護活動で実体験した内容や、整形外科勤務・接骨院院長などの実務経験に基づき講義する。（所有資格：柔道整復師）
到達目標	ディプロマポリシーに掲げる「柔道整復師の社会的役割を理解し、適切に行動するための知識を身につけている。」のために「柔道整復の専門知識を学び、論理的思考を養う」を目的とする。基礎的知識および柔道整復師国家試験水準の知識、臨床に活かせる技術を理解し、講義内容について重要点を要約できる学習力を身につける。
計画・内容	1) 授業ガイダンス（倫理含む） 上肢（骨・関節・筋） 2) 下肢（骨・関節・筋） 3) 骨折・脱臼・筋・腱・神経の総論 4) 上肢の骨折について 鎖骨～上腕骨 5) 上肢の骨折について 前腕骨～指骨 6) 上肢の脱臼について 胸鎖関節～肘関節 7) 上肢の脱臼について 橈骨手根関節～指節間関節 8) 上肢の軟部組織損傷について 肩部～肘部 9) 上肢の軟部組織損傷について 前腕部～指部 10) 下肢の骨折について 骨盤骨～大腿骨

2025年度

計画・内容	11) 下肢の骨折について 下腿骨～趾骨 12) 下肢の脱臼について 股関節～膝関節 13) 下肢の脱臼について 足関節～趾節間関節 14) 下肢の軟部組織損傷について 股関節部～膝部 15) 下肢の軟部組織損傷について 下腿部～足部
授業の進め方	教科書を中心にプロジェクターによる解説や配布プリント等を利用しながら進め、Webclassを活用して各 回既習範囲の小テストを実施し反復学習を行う。 過去の国家試験問題や演習問題を解いて重要点を把握する。 講義の内容により最後に講義内容についての授業内レポート（要約）を作成・提出する。 対面での講義実施が不可能な場合はzoomにより遠隔にて講義を実施する。
能動的な学びの実施	アクティブ・ラーニングのLite技法を用いて、短期記憶で消えず、長期記憶となるように実践する。
授業時間外の学修	・次回講義内容となる範囲の予習を行い、復習内容と合わせて不明な点をまとめる。 ・教科書、プリント、講義内容を関連付けて自分の講義ノートを整理すること (合計60時間程度)
教科書・参考書	・社団法人全国柔道整復学校協会監修・社団法人全国柔道整復学校協会教科書委員会編「柔道整復学・理論 編」発行所・株式会社南江堂（7200＋税） ・社団法人全国柔道整復学校協会監修・社団法人全国柔道整復学校協会教科書委員会編「柔道整復学・実技 編 第2版」発行所・株式会社南江堂（7000＋税） ・社団法人全国柔道整復学校協会監修・岸清、石塚寛編「解剖学 第2版」発行所・医歯薬出版株式会社 （7800＋税） ・社団法人全国柔道整復学校協会監修による国家試験対象科目の教科書
成績評価方法と基準	期末試験の成績、講義の取り組み方など総合的な観点から評価する。 期末試験85%、レポート・講義への取り組み）15% 対面での試験実施が不可能な場合は、それに代わる課題で評価する。
課題等に対するフィードバック	学生からのコメントペーパーの内容をもとに、授業への反映や配布資料等を行う。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	柔道整復師国家試験資格取得に備え必須の科目であり、必修科目のため必ず履修すること。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	ZOOMによる講義または課題によるレポートを作成し提出 講義への参加状況およびレポート課題内容を総合的に評価する。レポート課題の未提出および提出期限を 過ぎてからの提出は欠席扱いとする。 出欠状況、レポート課題50%、期末テスト50% 対面試験が実施できない場合はそれに代わる非対面試験で評価する

2025年度

科目名称	応用整復学
授業コード	BH416
英語名称	Applied reposition by Judo 5
学期	2025年度前期
単位	1.0
担当教員	浅木 健治, 佐藤 光浩, 金島 裕樹
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	・柔道整復師として必要な柔道整復学に関する知識と実践への応用について学ぶ
科目に関連する実務経験と授業への活用	・接骨院業務や救護活動に従事し臨床経験のある教員がそれぞれの専門分野を分担して講義, 実演する
到達目標	・ディプロマ・ポリシーの 【柔道整復師に必要な医学的知識・技術および基本的技能を有している】を達成するため 柔道整復師国家試験の該当科目において合格可能なレベルに達することを目標とする
計画・内容	1) 柔道整復学（上肢） 担当教員：浅 木【柔道整復師】 2) 柔道整復学（上肢） 担当教員：浅 木 3) 柔道整復学（上肢） 担当教員：浅 木 4) 柔道整復学（上肢） 担当教員：浅 木 5) 柔道整復学（総論／頭部・体幹） 担当教員：金 島【柔道整復師】 6) 校内模試 担当教員：金 島 7) 柔道整復学（総論／頭部・体幹） 担当教員：金 島 8) 柔道整復学（総論／頭部・体幹） 担当教員：金 島 9) 柔道整復学（総論／頭部・体幹） 担当教員：金 島 10) 柔道整復学（骨盤～下肢） 担当教員：佐藤光浩【柔道整復師】 11) 校内模試 担当教員：佐藤光浩 12) 柔道整復学（骨盤～下肢） 担当教員：佐藤光浩 13) 柔道整復学（骨盤～下肢） 担当教員：佐藤光浩 14) 柔道整復学（骨盤～下肢） 担当教員：佐藤光浩 15) 総 括 担当教員：浅 木

2025年度

授業の進め方	・柔道整復学の講義，問題演習とその解説を行う
能動的な学びの実施	・該当なし
授業時間外の学修	・柔道整復学の内容についての予習と各講義の内容についての復習（各回1時間～2時間程度）
教科書・参考書	書籍名：柔道整復学・理論編 改訂第7版 ・著 者 / 編者名：公益社団法人 全国柔道整復学校協会 ・出版社：株式会社 南江堂 ・出版年：2022年 3月 書籍名：柔道整復学・実技編 改訂第2版 ・著 者 / 編者名：公益社団法人 全国柔道整復学校協会 ・出版社：株式会社 南江堂 ・出版年：2012年 12月
成績評価方法と基準	・定期試験（100％）
課題等に対するフィードバック	・資料等を配布し理解を深めさせる ・授業内に行なった小テストの解説により重要なポイントのチェックを行う
オフィスアワー	・CampusSquareを参照のこと
留意事項	・出欠カードリーダーの不正利用が判明した場合は懲戒（退学，停学及び戒告）の対象となることがある
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	Zoomによるオンライン授業 ・授業動画配信によるオンデマンド授業 ・課題学修 のいずれかを実施または複数を組み合わせて実施する 定期試験（100％） 対面試験が実施できない場合はそれに代わる非対面試験で評価する

2025年度

科目名称	応用整復学
授業コード	BH417
英語名称	Applied reposition by Judo 6
学期	2025年度前期
単位	1.0
担当教員	浅木 健治, 佐藤 光浩, 金島 裕樹
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	・応用整復学 に引き続き 柔道整復師として必要な柔道整復学に関する知識と実践への応用について学ぶ
科目に関連する実務経験と授業への活用	・接骨院業務や救護活動に従事し臨床経験のある教員が それぞれの専門分野を分担して講義, 実演する
到達目標	・ディプロマ・ポリシーの 【柔道整復師に必要な医学的知識・技術および基本的技能を有している】を達成するため 柔道整復師国家試験の該当科目において合格可能なレベルに達することを目標とする
計画・内容	1) 柔道整復学（上肢） 担当教員：浅 木【柔道整復師】 2) 柔道整復学（上肢） 担当教員：浅 木 3) 柔道整復学（上肢） 担当教員：浅 木 4) 柔道整復学（上肢） 担当教員：浅 木 5) 柔道整復学（総論／頭部・体幹） 担当教員：金 島【柔道整復師】 6) 校内模試 担当教員：金 島 7) 柔道整復学（総論／頭部・体幹） 担当教員：金 島 8) 柔道整復学（総論／頭部・体幹） 担当教員：金 島 9) 柔道整復学（総論／頭部・体幹） 担当教員：金 島 10) 柔道整復学（骨盤～下肢） 担当教員：佐藤光浩【柔道整復師】 11) 校内模試 担当教員：佐藤光浩 12) 柔道整復学（骨盤～下肢） 担当教員：佐藤光浩 13) 柔道整復学（骨盤～下肢） 担当教員：佐藤光浩 14) 柔道整復学（骨盤～下肢） 担当教員：佐藤光浩 15) 総 括 担当教員：浅 木

2025年度

授業の進め方	・柔道整復学の講義，問題演習とその解説を行う
能動的な学びの実施	・該当なし
授業時間外の学修	・柔道整復学の内容についての予習と各講義の内容についての復習（各回1時間～2時間程度）
教科書・参考書	書籍名：柔道整復学・理論編 改訂第7版 ・著 者 / 編者名：公益社団法人 全国柔道整復学校協会 ・出版社：株式会社 南江堂 ・出版年：2022年 3月 書籍名：柔道整復学・実技編 改訂第2版 ・著 者 / 編者名：公益社団法人 全国柔道整復学校協会 ・出版社：株式会社 南江堂 ・出版年：2012年 12月
成績評価方法と基準	・定期試験（100％）
課題等に対するフィードバック	・資料等を配布し理解を深めさせる ・授業内に行なった小テストの解説により重要なポイントのチェックを行う
オフィスアワー	・CampusSquareを参照のこと
留意事項	・出欠カードリーダーの不正利用が判明した場合は懲戒（退学，停学及び戒告）の対象となることがある
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	Zoomによるオンライン授業 ・授業動画配信によるオンデマンド授業 ・課題学修 のいずれかを実施または複数を組み合わせて実施する 定期試験（100％） 対面試験が実施できない場合はそれに代わる非対面試験で評価する

2025年度

科目名称	柔道整復学実習
授業コード	BH124
英語名称	Reposition by Judo practice 1
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	行田 直人, 山中 博之, 浅木 健治, 畑山 元政
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	柔道整復師が日常の診療業務で外傷や応急処置に対して行う、固定の目的・種類・方法を実技実習を通して学ぶ。学生間でお互いの身体に包帯を巻くことにより、様々な体型や部位に関わらず包帯を巻けるようにする。また、様々な外傷に応用できる固定法を学び、柔道整復師の保存療法の適応についても理解する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	長年接骨院で患者をみてきた柔道整復師の教員が、現場での施術経験を活かし包帯固定について教授する。実際に接骨院で施術の際、患者に巻いている包帯や固定を紹介する。
到達目標	・伝承的（経験的）医療から近代医療の最新知識を修得し、科学的理論と伝承的医療技術を総合的に理解する能力を身につけ、痛みを訴える患者の心を理解し、解決への運用には協調性及び社会生活を円滑に保持し人間性を希求する態度を修得する。 ・ディプロマポリシーに掲げる柔道整復師に必要な医学的知識・技術および基本的技能を有することができる。また、柔道整復の応用力・実践力、主体性やコミュニケーション能力を身につけることができる。
計画・内容	1-2) ガイダンス、包帯固定法（概論） 【担当：畑山、浅木、山中】 予習：包帯固定 復習：基本包帯法 3-4) 基本包帯法 1：環行帯・螺旋帯・蛇行帯 【担当：畑山、浅木、山中】 予習：基本包帯法 復習：基本包帯法 5-6) 基本包帯法 2：折転帯・亀甲帯・麦穂帯 【担当：畑山、浅木、山中】 予習：基本包帯法 復習：基本包帯法 7-8) 部位別包帯法 1：肩部・股関節部 【担当：畑山、浅木、山中】 予習：部位別包帯法 復習：部位別包帯法 9-10) 部位別包帯法 2：肘部・膝部・前腕部・大腿部 【担当：畑山、浅木、山中】 予習：部位別包帯法 復習：部位別包帯法 11-12) 部位別包帯法 3：足関節部 【担当：畑山、浅木、山中】 予習：部位別包帯法 復習：部位別包帯法 13-14) 部位別包帯法 4：足関節部 【担当：畑山、浅木、山中】 予習：部位別包帯法 復習：部位別包帯法 15-16) 部位別包帯法 5：手関節部・手指部・下腿部・足趾部 【担当：畑山、浅木、山中】 予習：部位別包帯法 復習：基本包帯法 17-18) 部位別包帯法 6：頭部・胸部・背部 【担当：畑山、浅木、山中】 予習：部位別包帯法 復習：基本包帯法 19-20) 冠名包帯法 1：ヴェルポー包帯、ジュール包帯 【担当：畑山、浅木、山中】 予習：冠名包帯法 復習：冠名包帯法 21-22) 冠名包帯法 2：デゾー包帯 【担当：畑山、浅木、山中】 予習：冠名包帯法 復習：冠名包帯法 23-24) 理解度の確認 1 【担当：畑山、浅木、山中】 予習：基本包帯法 復習：部位別包帯法 25-26) 理解度の確認 2 【担当：畑山、浅木、山中】 予習：部位別包帯法 復習：部位別包帯法 27-28) まとめ 1【基本包帯法】 【担当：畑山、浅木、山中】

2025年度

計画・内容	予習：既習範囲 復習：既習範囲 29-30) まとめ2〔部位別包帯法〕 【担当：畑山、浅木、山中】 予習：既習範囲 復習：既習範囲
授業の進め方	教科書「包帯固定学」をもとに基本包帯法を反復練習しながら授業を進めていく。 担当教員が各グループを見て回り、適宜指導を行う。
能動的な学びの実施	授業で学習した包帯を友達や家族に巻いたり、実際に包帯を巻かれるなどその実体験をする。
授業時間外の学修	予習：講義予定の部位について教科書・参考書を参照し、キーワードに関して基本的な理解を得ておく。 復習：実習で得た知識をノートなどにまとめる。また、実習で得た技術は反復練習を行い技術の向上を図る。 予習、復習を必ず実施し包帯に早期に慣れるように努める。 授業で実施した包帯法は自宅等で練習すること。 授業前には教科書の該当範囲を読み、不明な箇所はまとめ授業の際に確認する（各回1時間～2時間程度） 授業後は教科書や配布プリントを関連付けて講義ノートを整理する（合計60時間程度）
教科書・参考書	教科書：包帯固定学 改訂第2版（全国柔道整復学校協会監修・南江堂）、柔道整復学・実技編 改訂第2版（全国柔道整復学校協会・南江堂）
成績評価方法と基準	実技試験（100％）により評価する。
課題等に対するフィードバック	各学生の進捗状況の確認を行いコメントをする。
オフィスアワー	Campus Squareを参照
留意事項	・東京柔道整復学科内規にある適切な身だしなみで授業に参加すること。 ・授業の進行状況により内容が変更される場合もあるためその際は事前に連絡をする。 ・授業内の反復練習だけでは技術の向上は難しいため、授業以外でも個人またはグループでの練習を重ねて技術の向上を目指す事が重要である。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 zoomによるオンライン授業と課題学修を組み合わせで実施する。 成績評価方法と基準 課題、レポートを総合的に評価する。（100％）

2025年度

科目名称	柔道整復学実習
授業コード	BH361
英語名称	Reposition by Judo practice 2
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	行田 直人, 松本 宗三, 藤原 基
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	柔道整復師として施術録の記載法の実習を行う他、身体各部の触診・徒手検査法や外傷評価法について実習を行う。具体的には、施術録（カルテ）記載方法の教授、体幹部（頸部、腰部）・上肢帯・下肢帯の徒手検査法、関節可動域測定法、筋力測定法を実習を通じて教授する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	臨床経験豊富な非常勤講師（松本；接骨院院長、柔道整復師）および本学教員（行田、藤原；柔道整復師）が臨床現場で行う施術録の手法を演習を通じて教授する。
到達目標	柔道整復師として施術録（カルテ）記載法についての理解および各種検査法等を理解し、実践できる能力を身につける。また、解剖学、生理学や柔道整復系科目と関連する内容についての結びつきを理解し、各検査法等についての理解を深める。カリキュラムポリシーに掲げる「外傷施術を科学する探究心」を涵養するために、これらについて臨床現場で役立つ技術を理解する。臨床現場での経験を有する柔道整復師が実習を行う。
計画・内容	1) ガイダンス 本実習の内容について 担当教員：行田・藤原・松本（柔道整復師） 予習：施術録記載方法について調べる 2) 施術録（カルテ）記載法について 問診 担当教員：行田・藤原・松本（柔道整復師）予習・復習：施術録の記載事項について理解しておく 3) 施術録（カルテ）記載法について 担当教員：行田・藤原・松本（柔道整復師）予習：施術録の記載ができるようにしておく 復習：前回の内容を理解しておく 4) 身体各部の触診 頸部 担当教員：行田・藤原・松本（柔道整復師） 予習：頸部の触診について調べておく 復習：前回の内容を理解しておく 5) 身体各部の検査 頸部 担当教員：行田・藤原・松本（柔道整復師） 予習：頸部の検査について調べておく 復習：前回の内容を理解しておく 6) 身体各部の触診 肩部 担当教員：行田・藤原・松本（柔道整復師） 予習：肩部の触診について調べておく 復習：前回の内容を理解しておく 7) 身体各部の検査 肩部 担当教員：行田・藤原・松本（柔道整復師） 予習：肩部の検査について調べておく 復習：前回の内容を理解しておく 8) 身体各部の触診 腰部 担当教員：行田・藤原・松本（柔道整復師） 予習：腰部の触診について調べておく 復習：前回の内容を理解しておく 9) 身体各部の検査 腰部 担当教員：行田・藤原・松本（柔道整復師） 予習：腰部の検査について調べておく 復習：前回の内容を理解しておく 10) 身体各部の触診 大腿部 担当教員：行田・藤原・松本（柔道整復師） 予習：大腿部の触診について調べておく 復習：前回の内容を理解しておく 11) 身体各部の検査 大腿部 担当教員：行田・藤原・松本（柔道整復師） 予習：大腿部の検査について調べておく 復習：前回の内容を理解しておく 12) 身体各部の触診 膝部 担当教員：行田・藤原・松本（柔道整復師） 予習：膝部の触診について調べておく 復習：前回の内容を理解しておく 13) 身体各部の検査 膝部 担当教員：行田・藤原・松本（柔道整復師） 予習：膝部の検査について調べておく 復習：前回の内容を理解しておく 14) 身体各部の触診 下腿部 担当教員：行田・藤原・松本（柔道整復師） 予習：下腿部の触診について調べておく 復習：前回の内容を理解しておく

計画・内容	15) 身体各部の検査 下腿部 担当教員：行田・藤原・松本（柔道整復師） 予習：下腿部の検査について調べておくこと 復習：前回の内容を理解しておくこと1 16) 身体各部の触診 足部 担当教員：行田・藤原・松本（柔道整復師） 予習：足部の触診について調べておくこと 復習：前回の内容を理解しておくこと 17) 身体各部の検査 足部 担当教員：行田・藤原・松本（柔道整復師） 予習：足部の検査について調べておくこと 復習：前回の内容を理解しておくこと 18) 関節可動域測定 体幹 担当教員：行田・藤原・松本（柔道整復師） 予習：体幹の関節可動域測定について調べておくこと 復習：前回の内容を理解しておくこと (19) 関節可動域測定 上肢 担当教員：行田・藤原・松本（柔道整復師） 予習：上肢の関節可動域測定について調べておくこと 復習：前回の内容を理解しておくこと 20) 関節可動域測定 下肢 担当教員：行田・藤原・松本（柔道整復師） 予習：下肢の関節可動域測定について調べておくこと 復習：前回の内容を理解しておくこと 21) 関節可動域測定 復習 担当教員：行田・藤原・松本（柔道整復師） 予習：関節可動域測定について調べておくこと 復習：前回の内容を理解しておくこと 22) 徒手筋力測定 上肢 担当教員：行田・藤原・松本（柔道整復師） 予習：上肢の徒手筋力測定について調べておくこと 復習：前回の内容を理解しておくこと 23) 徒手筋力測定 下肢 担当教員：行田・藤原・松本（柔道整復師） 予習：下肢の徒手筋力測定について調べておくこと 復習：前回の内容を理解しておくこと 24) 徒手筋力測定 復習 担当教員：行田・藤原・松本（柔道整復師） 予習：徒手筋力測定について調べておくこと 復習：前回の内容を理解しておくこと 25) 実施課題 担当教員：行田・藤原・松本（柔道整復師） 予習：これまでの実習内容について理解を深める 復習：前回の内容を理解しておくこと 26) 実施課題 担当教員：行田・藤原・松本（柔道整復師） 予習：これまでの実習内容について理解を深める 復習：前回の内容を理解しておくこと 27) 実施課題 担当教員：行田・藤原・松本（柔道整復師） 予習：これまでの実習内容について理解を深める 復習：前回の内容を理解しておくこと 28) 総合復習 担当教員：行田・藤原・松本（柔道整復師） 予習：これまでの実習内容について理解を深める 復習：前回の内容を理解しておくこと 29) 総合復習 担当教員：行田・藤原・松本（柔道整復師） 予習：これまでの実習内容について理解を深める 復習：前回の内容を理解しておくこと 30) 総合復習 担当教員：行田・藤原・松本（柔道整復師） 予習：これまでの実習内容について理解を深める 復習：前回の内容を理解しておくこと
授業の進め方	毎回、実習内容について教員が解説（デモ等）を行う。学生は、毎回の実習時間内に与えられた内容について、学生同士でグループ分け（患者役と施術者役となり）を行い実習する。 コロナウイルスの状況により、本講義はcampus square上での課題学習、オンライン講義等で行う。
能動的な学びの実施	グループ分けを行い、課題について全員でディスカッションを行い、解決案を導いていく。
授業時間外の学修	予習・復習は、各授業毎に習った内容について合計60時間以上行うこと。 予習：講義終了後に予習内容を通知する 復習：講義にて特に重要な箇所を指示する。
教科書・参考書	教科書 「柔道整復学・理論編」第7版、「柔道整復学・実技編」（南江堂） 柔道整復学外傷学ハンドブック 上肢の骨折・脱臼（医道の日本社） その他、必要に応じて教員が資料を配布する。
成績評価方法と基準	実技試験（100%）で評価する。実習内レポートまたは小テストを行った場合、それらを20%、実技試験80%として総合評価する。
課題等に対するフィードバック	評価結果の悪かった学生は個別に助言指導を行う。
オフィスアワー	Campus Squareを参照すること。
留意事項	各自、教授した実習内容を復習しておくこと。 これまで学んだ柔道整復学や解剖学の知識が必要である。

2025年度

非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	各講義に用に関してzoomによるオンライン授業と課題学修を組み合わせる。 課題レポート20%および掲示機能を用いた定期試験80%により評価する。
------------------------------------	---

2025年度

科目名称	臨床整復学実習
授業コード	BH231
英語名称	Clinical Reposition by Judo practice 1
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	金島 裕樹, 松本 宗三, 藤原 基
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	臨床現場において、上肢系の骨損傷等に遭遇した際に的確に対応するための問診、視診、触診などにより病態や合併症を判断する能力、整復、固定などの臨床的技量および予後を予測し予後を良好にするための処置や指導ができる能力の獲得を目的とする。また、適切な診察を行うため、この領域に必要な患者とのコミュニケーション能力の獲得を目的とする。
科目に関連する実務経験と授業への活用	臨床現場で様々な骨折等の状況を把握するために必要な問診から検査までの一連の流れを本学教員（金島、藤原：柔道整復師）と非常勤講師（松本：接骨院院長、柔道整復師）が、これまでの実務経験を活かして教授する。
到達目標	カリキュラムポリシーに掲げる基礎柔道整復学・臨床柔道整復学で養った「柔道整復の専門知識を学び、論理的思考」をもとに、「柔道整復の技術を学び、実践力を養う」ために、下記の到達目標をあげる。また、本実習は臨床経験豊富な柔道整復師が行う。 1. 上肢系の骨損傷等について説明でき、診察法、応急処置または治療法、後療法などを適切に実施できる。 2. 知識をもとにした論理的思考能力により、患者の病態を的確に判断し適切な治療を行うことができる。 3. 患者と良好なコミュニケーションを実践できる。
計画・内容	金島、藤原：柔道整復師 松本：非常勤講師（接骨院院長、柔道整復師） 1) 上肢帯の解剖学の理解・触診 1 担当教員：金島裕樹, 藤原基, 松本宗三 予習：上肢帯の骨と筋について 復習：上肢帯の神経について 2) 上肢帯の解剖学の理解・触診 2 担当教員：金島裕樹, 藤原基, 松本宗三 予習：上肢帯の骨, 筋, 神経について 復習：鎖骨骨折の症状について 3) 上肢帯の解剖学の理解・触診 3 担当教員：金島裕樹, 藤原基, 松本宗三 予習：上肢帯の骨, 筋, 神経について 復習：鎖骨骨折の症状について 4) 上肢帯の解剖学の理解・触診 4 担当教員：金島裕樹, 藤原基, 松本宗三 予習：上肢帯の骨, 筋, 神経について 復習：鎖骨骨折の症状について 5) 鎖骨骨折の整復法と固定法 その1 担当教員：金島裕樹, 藤原基, 松本宗三 予習：鎖骨骨折の整復手順について 復習：鎖骨骨折の固定法について 6) 鎖骨骨折の整復法と固定法 その2 担当教員：金島裕樹, 藤原基, 松本宗三 予習：鎖骨骨折の整復手順について 復習：鎖骨骨折の固定法について 7) まとめ1（鎖骨骨折の診察法、整復法と固定法の確認） 担当教員：金島裕樹, 藤原基, 松本宗三 予習：鎖骨骨折の診察法について 復習：鎖骨骨折の整復法と固定法について 8) まとめ2（鎖骨骨折の診察法、整復法と固定法の確認） 担当教員：金島裕樹, 藤原基, 松本宗三 予習：鎖骨骨折の診察法について 復習：鎖骨骨折の整復法と固定法について 9) まとめ3（鎖骨骨折の診察法、整復法と固定法の確認） 担当教員：金島裕樹, 藤原基, 松本宗三 予習：鎖骨骨折の診察法について 復習：鎖骨骨折の整復法と固定法について 10) 上肢外傷に関する各種検査法 1 担当教員：金島裕樹, 藤原基, 松本宗三 予習：徒手検査について 復習：実習内容について

計画・内容	11) 上肢外傷に関する各種検査法 2 担当教員：担当教員：金島裕樹,藤原基,松本宗三 予習：徒手検査について 復習：実習内容について 12) 上腕骨外科頸骨折について 1 担当教員：担当教員：金島裕樹,藤原基,松本宗三 予習：上腕骨外科頸骨折の骨,筋,神経について 復習：上腕骨外科頸骨折の症状について 13) 上腕骨外科頸骨折の整復前の確認事項 担当教員：担当教員：金島裕樹,藤原基,松本宗三 予習：上腕骨外科頸骨折の症状等について 復習：上腕骨外科頸骨折の合併症について 14) 上腕骨外科頸骨折の整復法と固定法 担当教員：担当教員：金島裕樹,藤原基,松本宗三 予習：上腕骨外科頸骨折の合併症について 復習：上腕骨外科頸骨折の予後について 15) 上腕骨外科頸骨折の整復法と固定法 その2 担当教員：金島裕樹,藤原基,松本宗三 予習：上腕骨外科頸骨折の整復手順について 復習：上腕骨外科頸骨折の固定法について 16) 上腕骨外科頸骨折の整復法と固定法 その3 担当教員：担当教員：金島裕樹,藤原基,松本宗三 予習：上腕骨外科頸骨折の整復手順について 復習：上腕骨外科頸骨折の固定法について 17) まとめ 1 (上腕骨外科頸骨折の診察法, 整復法と固定法の確認) 金島裕樹,藤原基,松本宗三 予習：上腕骨外科頸骨折の診察法について 復習：上腕骨外科頸骨折の整復法と固定法について 18) まとめ 2 (上腕骨外科頸骨折の診察法, 整復法と固定法の確認) 担当教員：金島裕樹,藤原基,松本宗三 予習：上腕骨外科頸骨折の診察法について 復習：上腕骨外科頸骨折の整復法と固定法について 19) まとめ 3 (上腕骨外科頸骨折の診察法, 整復法と固定法の確認) 担当教員：金島裕樹,藤原基,松本宗三 予習：上腕骨外科頸骨折の診察法について 復習：上腕骨外科頸骨折の整復法と固定法について 担当教員：金島裕樹,藤原基,松本宗三 予習：上腕骨骨幹部周囲の筋と神経について 復習：上腕骨骨幹部骨折の特徴について 21) 上腕骨骨幹部骨折の治療法 担当教員：金島裕樹,藤原基,松本宗三 予習：上腕骨骨幹部の症状について 復習：上腕骨骨幹部骨折の合併症, 予後について 22) 上腕骨遠位端部骨折の総括的事項 担当教員：金島裕樹,藤原基,松本宗三 予習：上腕骨遠位端部の骨,筋,神経について 復習：上腕骨遠位端部骨折の特徴について 23) 上腕骨顆上骨折の整復前の確認事項 担当教員：金島裕樹,藤原基,松本宗三 予習：上腕骨顆上骨折の症状について 復習：上腕骨顆上骨折の合併症について 24) 上腕骨顆上骨折の整復法と固定法 その1 担当教員：担当教員：金島裕樹,藤原基,松本宗三 予習：上腕骨顆上骨折の合併症について 復習：上腕骨顆上骨折の予後について 25) 上腕骨顆上骨折の整復法と固定法 その2 担当教員：金島裕樹,藤原基,松本宗三 予習：上腕骨顆上骨折の整復手順について 復習：上腕骨顆上骨折の固定法について 26) 上腕骨顆上骨折の整復法と固定法 その3 担当教員：金島裕樹,藤原基,松本宗三 予習：上腕骨顆上骨折の整復手順について 復習：上腕骨顆上骨折の固定法について 27) まとめ 1 (上肢系の解剖の理解、触診) 担当教員：金島裕樹,藤原基,松本宗三 予習：上腕骨顆上骨折の診察法について 復習：上腕骨顆上骨折の整復法と固定法について 28) まとめ 2 (上肢系の各種検査法の確認) 担当教員：金島裕樹,藤原基,松本宗三 予習：上腕骨顆上骨折の診察法について 復習：上腕骨顆上骨折の整復法と固定法について 29) まとめ 3 (上腕骨骨折の診察法, 整復法と固定法の確認 1) 担当教員：金島裕樹,藤原基,松本宗三 予習：上腕骨顆上骨折の診察法について 担当教員：金島裕樹,藤原基,松本宗三
授業の進め方	講義は1～30回で、各回90分である。各回において、原則として次のように授業を進める。まず、学習する疾患について教員による診察法、整復法、固定法等について解説する。次に、グループ分けをして先生役や患者役となり、実際の臨床をシミュレーションして問診、視診、触診などの診察や整復、固定実技の習熟度と患者とのコミュニケーション能力向上を図る。
能動的な学びの実施	理解を深めるため必要に応じて実習(ロールプレイングなど)を行う。
授業時間外の学修	予習・復習は、各授業毎に習った内容について合計60時間以上行うこと。 なお、予習・復習内容は、計画・内容記載を基に以下の通りとする。 予習：実習期間中に担当教員からの指示に従うこと。 復習：実習中に学んだ内容をレポートし、自身の考えを述べるができるようにすること。
教科書・参考書	教科書：「柔道整復学・理論編」・「柔道整復学・実技偏」(南江堂)
成績評価方法と基準	実習内容に関する定期試験(実技試験)の成績(100%)で評価する。授業内レポートもしくは小テストを実施した場合は、授業内レポートもしくは小テスト(30%)、定期試験(実技試験)(70%)で総合的に評価する。

2025年度

成績評価方法と基準	価する。 定期試験に関しては、教授した範囲に関する客観式試験（難易度および出題形式は柔道整復師国家試験に準ずる）とする。
課題等に対するフィードバック	実習中やテストにおいて問題点などがあった場合には個別に面談を行い指導する。
オフィスアワー	Canous Squareを参照すること
留意事項	進行の度合いにより内容が変更されることもある。その際は事前連絡する。授業内だけでの技術向上は難しいため、個人またはグループでの練習を重ねて技術向上を目指す必要がある。これまで学んだ柔道整復学や解剖学の知識が必要です。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	zoomによるオンライン授業（事前に資料を掲示）と課題学習（講義終了後に課題を課す）を組み合わせで実施する。 課題レポート内容評価20%、campus square上でのオンライン定期試験（80%）により評価する。

2025年度

科目名称	臨床整復学実習
授業コード	BH288
英語名称	Clinical Reposition by Judo practice 2
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	濱田 淳, 浅木 健治, 藤原 基
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	上肢の関節、胸鎖関節・肩鎖関節・肩関節・上腕部周辺等の関節脱臼及び筋腱軟部組織損傷を中心に実技実習講義を行う。特に臨床的症例をパワーポイントを使用してわかりやすく解説する。 関節損傷を理解するためには機能解剖の知識が不可欠であるので、その都度繰り返し勉強する。保存療法に必要な診断法、整復法、固定法、後療法、特有な合併症等について実習する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	柔道整復師を目指すうえで必要な下肢の各部（骨盤から膝関節まで）の損傷について診断法、整復法、固定法を、接骨院での臨床経験のある教員がその経験を活かして講義する。 担当教員 濱田 淳 元接骨院院長 柔道整復師 浅木 健治 元接骨院勤務 柔道整復師 藤原 基 元接骨院勤務 柔道整復師
到達目標	ディプロマポリシーに掲げる「柔道整復師に必要な医学的知識・技術および基本的技能」を有することを目的として、総合的に診断法・整復法・固定法・後療法等について理解する。 カリキュラムポリシーに掲げる「柔道整復の技術を学び、実践力を養う、および総合的な能力を養う」ことにより、柔道整復師の基礎概念を習得し、本実習内で学習する外傷について理論的に理解し、実践するために必要な技術を身につける。
計画・内容	【計画・内容】 1) 実習の進め方、ガイダンス 2) 上肢帯の解剖, 周辺軟部組織の解剖 3) 胸鎖関節脱臼 分類・症状・整復法・鑑別診断・固定法 4) 胸鎖関節脱臼 整復法、固定法実習（体幹部包帯の実習を含む）班別 5) 上肢解剖と肩関節の機能解剖 6) 肩鎖関節脱臼 分類と発生機序・症状・整復法 7) 肩鎖関節脱臼 分類別整復法と固定法（班別） 8) 肩鎖関節脱臼 硬化材料使用固定実習 9) 肩関節脱臼 分類と発生機序・鑑別診断（骨折との鑑別） 10) 肩関節脱臼 症状と整復法を理解させる

計画・内容	11) 肩関節脱臼 整復法と固定法（綿包帯伝承的固定法）班別 12) 肩関節脱臼 整復法実習、固定法演習（班別） 13) 肩関節脱臼 硬質材料使用による固定実習 14) 肩関節測定法（音叉・打検・圧痛計）と機能的な運動療法 15) 肩関節測定法実習と運動療法実習（班別） 16) 肩関節脱臼 臨床演習症例供覧と応用実習 17) 肩関節脱臼 臨床演習症例供覧と応用演習（班別） 18) 腱板断裂 分類と発生機転・症状 19) 腱板断裂 検査法と固定法・後療法 20) 上腕二頭筋長頭腱損傷 分類と発生機転・症状 21) 上腕二頭筋長頭腱損傷 検査法と固定法・後療法 22) その他の肩関節軟部組織損傷 23) 上肢・体幹臨床的な総合包帯法実習 24) 上肢・体幹臨床的な総合包帯法実習（班別） 25) 肩鎖関節脱臼・肩関節脱臼症例演習 26) 肩鎖関節脱臼・肩関節脱臼症例演習 27) 胸鎖・肩鎖・肩関節の脱臼、肩軟部組織損傷のまとめ 28) 胸鎖・肩鎖・肩関節の脱臼、肩軟部組織損傷のまとめ 29) 胸鎖・肩鎖・肩関節の脱臼、肩軟部組織損傷のまとめ 30) 胸鎖・肩鎖・肩関節の脱臼、肩軟部組織損傷のまとめ 各回、各教員が学生へ教授する。
授業の進め方	柔道整復理論の講義あるいは問題演習とその解説などを行う。
能動的な学びの実施	授業内容によってはグループに分かれグループ毎に評価表を基に評価を行い、ディスカッションを通して問題点や課題を理解する。
授業時間外の学修	授業時間外学習 各予習、復習に60分以上（合計60時間程度） 予習：講義予定の部位について教科書・参考書を参照し、キーワードに関して基本的な理解を得ておくこと 復習：実習で得た知識をノートなどにまとめる。また、実習で得た技術は反復練習を行い技術向上を図る。

2025年度

教科書・参考書	[教科書・参考書] 1) 公益社団法人全国柔道整復学校協会教科書委員会編「柔道整復学理論編」(改訂7版) 発行所・株式会社南江堂定価7200円 2) 公益社団法人全国柔道整復学校協会教科書委員会編「柔道整復学実技編」(改訂2版) 発行所・株式会社南江堂定価7000円
成績評価方法と基準	平常点(課題内容、出席数など)30%、期末試験70%にて到達目標に達成しているかどうかを総合的に評価を行う。 実技科目のため、原則として3回(6コマ)以上欠席(考慮できる理由なく)した学生は単位を認めない。
課題等に対するフィードバック	学生からの課題などの進捗確認の都度、コメントを行う。
オフィスアワー	Campus Square を参照
留意事項	進行の度合いにより内容が変更されることもある。その際は事前連絡する。 講義内だけの技術向上は難しいため、個人またはグループでの練習を重ねて技術向上を目指す必要がある。 非対面形式であっても医療従事者にふさわしい身なりで受講すること。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	Zoomによるオンライン授業 授業動画配信によるオンデマンド授業 課題学修 のいずれか、または複数を組み合わせて実施する。 授業中課題50%と定期試験の成績50%にて到達目標に達成しているかどうかを総合的に評価を行う。 対面試験が実施できない場合はそれに代わる非対面試験で評価する。

2025年度

科目名称	臨床整復学実習
授業コード	BH319
英語名称	Clinical Reposition by Judo practice 3
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	小黒 正幸, 戸部 悠紀, 柳井 徹哉
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	医師や関連医療職種との連携を円滑に実践するため、医療人として臨床現場で実践可能な知識の獲得を目指す。 上肢(前腕から手指部)の骨折損傷について診断法、整復法、固定法を学び実技実習を繰り返し習熟する。 柔道整復師が必要とする観察力と判断力を養い、初検時より回復に至るまでの過程において適宜、正しい評価を行えるようにする。
科目に関連する実務経験と授業への活用	柔道整復師を目指すうえで必要な上肢(前腕から手指部)の骨折損傷について、診断法、整復法、固定法を、整形外科医院、接骨院での臨床経験のある教員がその経験を活かして教授する。 担当教員 小黒 正幸 元大学附属接骨院院長 整形外科勤務 柔道整復師 戸部 悠紀 元大学附属接骨院院長 柔道整復師 柳井 徹哉 現接骨院院長 柔道整復師
到達目標	・各部の診断法、整復法、固定法の目的を理解し、実践できる ・状況判断ができ、問題点または課題を発見できる ・柔道整復の技術を学び、実践力を養うために、外傷施術を科学する探究心を涵養し、地域医療に貢献できるよう、教授分野の基本的な技術と実践力を知識を身につける。 ・これらを総合し、ディプロマポリシーにある「人々の健康および柔道整復の発展に貢献しうる主体的な学修能力を身につける」ことを最終目標とする。
計画・内容	1-2) ガイダンス・グループ分け・演習問題等 3-4) 第5中手骨頸部骨折/概論と診察・整復 5-6) 第5中手骨頸部骨折/固定 7-8) 舟状骨骨折/概論と診察・整復 9-10) 舟状骨骨折/固定・ブライトンシーネ 11-12) コーレス骨折・概論と整復法 13-14) コーレス骨折・固定材料作成 15-16) コーレス骨折・固定 金属副子と厚紙副子 17-18) コーレス骨折・固定 キャスト 19-20) 肘頭骨折/概論と診察・整復 21-22) 肘頭骨折/固定・U字 23-24) 橈骨頭骨折/概論と診察・整復 25-26) 総復習(実技試験対策) 27-28) 実技試験 29-30) 実技試験・まとめ 全回数を以下の教員が担当する。

2025年度

計画・内容	小黒 正幸 元大学附属接骨院院長 柔道整復師 戸部 悠紀 元大学附属接骨院院長 柔道整復師 柳井 徹哉 現接骨院院長 柔道整復師 感染症対策として、感染症の拡大状況により、 対面授業であっても、実技室のキャパシティにより、 全体を2～3班に分けて実技、課題、座学を週ごとに交代して実施の場合がある。
授業の進め方	説明と実技実習を交えて講義を行う。 病態を理解し、正しい診断法、整復法及び固定法を習得出来るように反復練習する。 教員が各グループを見て回り、適宜指導を行う。 固定法の復習を適宜行う。
能動的な学びの実施	実技実習では2人もしくは3人一組となりお互いの身体に整復や固定を行うことで技術の修得を図る。 また、実習内容によってはグループに分かれグループ毎に評価表を基に評価を行い、施術者役、患者役を経験することを通して問題点や課題を理解する。
授業時間外の学修	授業時間外学習（合計60時間程度） 予習：講義予定の部位について教科書・参考書を参照し、キーワードに関して基本的な理解を得ておくこと 復習：実習で得た知識をノート・プリントなどにまとめる。また、実習で得た技術は反復練習を行い技術向上を図る。
教科書・参考書	教科書：「柔道整復学・理論編」「柔道整復学・実技編」(南江堂)
成績評価方法と基準	平常点（実習態度、出席数、筆記試験など）20%、実技試験80%、にて到達目標に達成しているかどうかを総合的に評価を行う。 実技科目のため、原則として3回（6コマ）以上欠席（考慮できる理由なく）した学生は単位を認めない。
課題等に対するフィードバック	学生からの実習進捗確認の都度、実技指導、コメントを行う。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	進行の度合いにより内容が変更されることもある。その際は事前連絡する。 授業内だけの技術向上は難しいため、個人またはグループでの練習を重ねて技術向上を目指す必要がある。 医療従事者にふさわしい身なりで受講すること。 不適切と認めた場合には、授業の進行を妨げるものとして、参加を認めないことがある。 また、必修科目であるため、必ず第1回目の授業から履修登録の上、出席のこと。 感染症対策として、感染症の拡大状況により対面授業であっても、 実技室のキャパシティにより、 全体を2～3班に分けて実技、課題、座学を週ごとに交代し、 密をさけての実施となる場合がある。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	Zoomによるオンライン授業 授業動画配信によるオンライン授業 課題学習 のいずれか、または複数を組み合わせて実施する。 授業中課題50%と定期試験(筆記)の成績50%にて到達目標に達成しているかどうかを総合的に評価を行う。 。対面試験が実施できない場合はそれに代わる非対面試験(筆記)で評価する。

2025年度

科目名称	臨床整復学実習
授業コード	BH290
英語名称	Clinical Reposition by Judo practice 4
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	佐藤 光浩, 柳井 徹哉, 畑山 元政
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	指尖から肘関節までの脱臼・軟部損傷の診断法・鑑別診断・整復法・固定法・後療法の概要を理解する。 医師や関連医療職種との連携を円滑に実践するため、医療人として臨床現場で実践可能な知識の獲得を目指す。 外傷施術を科学する探究心を涵養し、地域医療に貢献できる人材を目指す。 生命の尊厳を考え、高い倫理性を持って幅広く国民の健康の回復と維持に貢献する人材を育成する。 目の前に患者さんがいることを想定し実践力を養う。
科目に関連する実務経験と授業への活用	整形外科（物理療法室主任）や接骨院（院長）での25年以上に及ぶ臨床経験から、実践的かつ理論的に外傷に対する症状、鑑別診断、検査法、評価法、整復法、固定法について教授する。
到達目標	【科目特有の知識・技能についての到達目標】 脱臼・筋腱軟部組織の非観血的な整復固定について理解する DP 伝承的（経験的）医療から近代医療の最新知識を修得し、科学的理論と伝承的医療技術を総合的に理解する能力を身につけ、痛みを訴える患者の心を理解し、解決への運用には協調性及び社会生活を円滑に保持し人間性を希求する態度を修得する。 また豊富な臨床体験を通じ外傷で悩むものを早期社会復帰をなしえるかを考え、情熱的で独創性能力を身につける柔道整復師を求める。 cp 少人数教育も取り入れ、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開する。 医師や関連医療職種との連携を円滑に実践するため、この科目に関する、他の疾病および傷害も理解し、臨床現場で実践可能な知識とコミュニケーション能力を獲得できるよう実施する。
計画・内容	1) ガイダンス 基本包帯法 予習 肘関節脱臼理論 復習 肘関節脱臼の分類、特徴 1班 佐藤、2班 畑山、3班 柳井 2) 肘関節脱臼 予習 肘関節脱臼後方脱臼 復習 肘関節後方脱臼・整復法・固定法 1班 佐藤、2班 畑山、3班 柳井 3) 肘関節脱臼 予習 肘関節後方脱臼の合併症 復習 肘関節後方脱臼 評価・整復・固定・合併症 1班 佐藤、2班 畑山、3班 柳井

計画・内容	4) 肘関節軟部組織損傷 予習 肘関節軟部組織損傷 復習 肘関節軟部組織損傷の鑑別・スペシャルテスト 1班 佐藤、2班 畑山、3班 柳井 5) 1)～4) まとめ 確認テスト 予習 肘関節関節損傷について総復習 復習 1)～4) までの総復習 1班 佐藤、2班 畑山、3班 柳井 6) 近位橈尺関節脱臼・遠位橈尺関節脱臼・前腕の軟部組織損傷 予習 橈尺関節損傷 復習 橈尺関節損傷の分類・鑑別 1班 佐藤、2班 畑山、3班 柳井 7) 近位橈尺関節脱臼・遠位橈尺関節脱臼・前腕の軟部組織損傷 予習 橈尺関節損傷 の整復・固定 復習 橈尺関節損傷の整復・固定 1班 佐藤、2班 畑山、3班 柳井 8) 橈骨手根関節脱臼・月状骨脱臼・月状骨周囲脱臼 予習 橈骨手根関節脱臼・月状骨脱臼・月状骨周囲脱臼の分類・特徴 復習 橈骨手根関節脱臼・月状骨脱臼・月状骨周囲脱臼の整復・固定 1班 佐藤、2班 畑山、3班 柳井 9) 6)～8) まとめ 確認テスト 予習 橈尺関節損傷、手関節損傷について復習する 復習 6)～8) までの総復習 1班 佐藤、2班 畑山、3班 柳井 10) その他の手根骨脱臼・手根骨不安定症・手関節の軟部組織損傷 (含む TFCC損傷) 予習 手関節損傷の鑑別 復習 手関節損傷の整復・固定 1班 佐藤、2班 畑山、3班 柳井 11) 手根中手関節脱臼・第1指中手指節(MP)関節脱臼・ 第2～5指中手指節関節脱臼、近位指節間 (PIP)関節脱臼・遠位指節間(DIP)関節脱臼 予習 MP、P P、DIP関節損傷の分類・鑑別 復習 MP、P P、DIP関節損傷の整復・固定 1班 佐藤、2班 畑山、3班 柳井 12) 手根中手関節脱臼・第1指中手指節(MP)関節脱臼・ 第2～5指中手指節関節脱臼、近位指節間 (PIP)関節脱臼・遠位指節間(DIP)関節脱臼 予習 MP、P P、DIP関節損傷の評価 復習 MP、P P、DIP関節損傷の評価・整復・固定 1班 佐藤、2班 畑山、3班 柳井 13) 手指の軟部組織損傷 予習 手指軟部組織損傷の分類 復習 手指軟部組織損傷の評価・固定 1班 佐藤、2班 畑山、3班 柳井 14) 手指の軟部組織損傷 予習 手指軟部組織損傷の後療法 復習 手指軟部組織損傷の評価・固定・後療法 1班 佐藤、2班 畑山、3班 柳井 15) 試験とまとめ 予習 全ての項目について、鑑別・評価・固定・後療法について 復習 前期内容の総復習 1班 佐藤、2班 畑山、3班 柳井
授業の進め方	グループやペアに分かれ評価表を基に評価を行い、 問題点や課題を理解する。 理論・実技の教科書をもとに 整復法、固定法を徹底して学習する。

2025年度

授業の進め方	また、テーピングを用いた固定法を学習する。 各教員がグループを見て回り、適宜指導を行う。
能動的な学びの実施	臨床現場にて遭遇することの多い外傷であるので、 実際にその患者が目の前にいることを想像し 整復、固定の練習をすること。 ロールプレイングなどによりグループワークを行い、 より臨床に即した講義と実技を展開していく。
授業時間外の学修	授業時間外学習（予習・復習 合計90分以上） 予習：講義予定の部位について教科書・参考書を参照し、キーワードに関して 基本的な理解を得ておくこと 復習：実習で得た知識をノートなどにまとめる。 また、実習で得た技術は反復練習を行い技術向上を図る。
教科書・参考書	柔道整復学 実技編 全国柔道整復学校協会・教科書委員会 編集 南山堂 必要に応じプリントを配布する。
成績評価方法と基準	期末試験の成績(100%))にて評価を行う。 評価要素として授業態度を評価点に加える。 期末試験の成績により評価するが、 対面での試験実施が不可能な場合は、 オンライン試験かそれに代わる授業での課題で評価する（50%） 実施する課題レポートの提出、内容を評価する（50%）。
課題等に対するフィードバック	課題提出後に、 授業内、または キャンパススクエア、WebClass、学内メールを利用し、 課題に対するフィードバックを行う。
オフィスアワー	Campus Square を参照
留意事項	進行の度合いにより内容が変更されることもある。 その際は事前連絡する。 実技に集中すること。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 感染症等の蔓延により制限を受けた場合は、 zoomを利用した非対面授業、 または人数を制限した対面授業を行う。 非対面授業の場合、授業課題提出を求める。 成績評価方法と基準 実技試験、授業への参加、課題提出等を考慮し総合的に判断する。 * オンライン試験かそれに代わる授業での課題で評価する（50%） 実施する課題レポートの提出、内容を評価する（50%）。

2025年度

科目名称	臨床整復学実習
授業コード	BH362
英語名称	Clinical Reposition by Judo practice 5
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	金島 裕樹, 山中 博之, 戸部 悠紀
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	本科目は、頭部・体幹の損傷について実習形式で学ぶ。 日常、比較的遭遇しやすい顎関節脱臼や肋骨骨折については実技実習を行う。 また、柔道整復師の院外活動を紹介しながら、応急処置の重要性について学び、グループワークで市民健康講座の講師を疑似体験する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	柔道整復師として、様々な経験を有する教員がその実務経験を活かして実践的教育を行う。 担当教員 金島裕樹 整骨院院長 / 整形外科勤務 / 東京オリンピックメディカルスタッフ 戸部悠紀 元大学附属接骨院院長 / 柔道整復師 山中博之 接骨院院長 / 柔道整復師
到達目標	「柔道整復師に必要な医学的知識・技術および基本的技能を有している」、「他者と協同して問題を解決するための能力を身につけている」、「人々の健康および柔道整復の発展に貢献しうる主体的な学修能力を身につけている」ことを獲得するため、カリキュラム・ポリシーに掲げる「柔道整復の技術を学び、実践力を養う」こと、および「総合的な能力を養う」ことを目的として、下記の到達目標をあげる。 1. 頭部と体幹の損傷において、柔道整復の業務範囲を理解し、その範囲内の技術力を高めて業務遂行能力を養う。 2. 柔道整復師の院外活動についても知識を深めて、社会から必要とされる人となれるように、演習を通して実践力を養う。
計画・内容	第1-2回 ガイダンス 柔道整復師の院外活動（スポーツ現場） 第3-4回 柔道整復師の院外活動（市民健康講座講師） 第5-6回 グループワーク プレゼンテーションの作成 第7-8回 グループワーク プレゼンテーションの作成 第9-10回 頸部の軟部組織損傷 第11-12回 背部・腰部の軟部組織損傷 第13-14回 グループプレゼンテーション 健康講座講師の疑似体験 第15-16回 グループプレゼンテーション 健康講座講師の疑似体験 第17-18回 臨床における様々な固定法

2025年度

計画・内容	第19-20回 顎関節脱臼 第21-22回 肋骨骨折 第23-24回 顎関節脱臼と肋骨骨折 習練 第25-26回 理解度の確認 第27-28回 理解度の確認 第29-30回 頭部・体幹の損傷 総括 全回数を以下の教員が担当する。 金島裕樹、戸部悠紀、山中博之
授業の進め方	・パワーポイントを使用した授業形式で、映像資料など適宜活用する。 ・必要に応じて資料の配布を行う。 ・パディやグループでワークを行う。
能動的な学びの実施	・自ら問題の発見・解決に取り組むことができる能力を身につけるためにアクティブラーニングを取り入れた授業を行う。 ・パディやグループにて、課題についてのディスカッションを行い、協同（協働）の中から自身の役目・役割を認識し、目的の作業を完結させる。
授業時間外の学修	予習：講義予定の内容を確認し、教科書に該当箇所がある回は、当該箇所を熟読しておくこと。 復習：実習で得た知識をノートにまとめる。 実習により得られた技術は反復練習を行い、技術力向上につとめる。 （合計60時間程度）
教科書・参考書	「柔道整復学・理論編」南江堂 「柔道整復学・実技編」南江堂 「包帯固定学」南江堂
成績評価方法と基準	・グループプレゼンテーション：50% ・口頭試問を含めた実技試験：50% 成績評価対象者は、授業実施数の2/3以上出席している者とする。 上記の成績評価方法にて、本科目の到達目標に達しているかどうかを判定し評価する。
課題等に対するフィードバック	・学生からのコメントをもとに、授業への反映や資料配布等を行う。 ・学生の発言の都度、コメントを行う。 ・学生によるプレゼンと実技試験については、次回授業開始時にフィードバックを行う。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	臨床現場では、学んだ知識・技術を実践できることは無論、教科書的なことだけではない病態の把握や応用力が必要となります。そして患者中心の医療を実現するためには、多様な学びにより視野を広げ、柔軟な思考力を養うことも重要です。将来、社会から求められる人となれるように大きなベースを築きましょう。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	Zoomによるオンライン授業と課題学修を組み合わせて実施する。 プレゼン日が非対面となった場合は、発表動画を録画して提出：50% 実技試験日が非対面となった場合は、オンライン試験もしくはレポート提出：50% 成績評価対象者は、対面授業とオンライン授業（課題学修含）の実施数の2/3以上出席している者とする。 上記の成績評価方法にて、本科目の到達目標に達しているかどうかを判定し評価する。

2025年度

科目名称	臨床整復学実習
授業コード	BH317
英語名称	Clinical Reposition by Judo practice 6
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	濱田 淳, 佐藤 光浩, 佐藤 勉
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	下肢の各部（骨盤から膝関節まで）の損傷について骨折・脱臼・筋腱軟部組織損傷を中心に柔道整復師が行う施術・応急処置の目的、種類、方法の理論を学び、実技実習を繰り返し習熟する。その際、術者、助手、患者などの担当者を決め、それぞれの状況、役割を体験することで実践力を養う。また、各論的に種々の外傷に応用できる固定法を実技実習したうえで、柔道整復師における保存療法の範囲について学ぶ。
科目に関連する実務経験と授業への活用	柔道整復師を目指すうえで必要な下肢の各部（骨盤から膝関節まで）の損傷について診断法、整復法、固定法を、接骨院での臨床経験のある教員がその経験を活かして講義する。 担当教員 濱田 淳 元接骨院院長 柔道整復師 佐藤 光浩 元接骨院院長 柔道整復師 佐藤 勉 元接骨院勤務 柔道整復師
到達目標	・柔道整復師の基礎概念を習得し、本講義内で学習する外傷について、既に学んだ理論から実践への繋がりを理解し、それを第三者に説明できるとともに、実践するために何が必要か分析できる知識を持ったうえで実践力を身につける。 ・外傷発生における条件を理解し説明をできるようにする。 ・実践的なシミュレーション下において、瞬時に適切な検査・診断ができるようにする。 ・カリキュラム・ポリシーに掲げる「柔道整復の技術を学び、実践力を養う」および「柔道整復の応用力・実践力、および主体性やコミュニケーション能力を身につける」が実現するよう、柔道整復学分野の臨床的な知識・技術を身につける。
計画・内容	1-2) 講義概説 骨盤部の損傷 、認定実技内容 3-4) 骨盤部の損傷 、認定実技内容 5-6) 股関節部の損傷 、認定実技内容 7-8) 股関節部の損傷 、認定実技内容 9-10) 股関節部の損傷 、認定実技内容 11-12) 股関節部の損傷 、認定実技内容 13-14) 大腿骨部の損傷 、認定実技内容 15-16) 大腿骨部の損傷 、認定実技内容 17-18) 膝関節部の損傷 、認定実技内容

2025年度

計画・内容	19-20) 膝関節部の損傷、認定実技内容 21-22) 膝関節部の損傷、認定実技内容 23-24) 膝関節部の損傷、認定実技内容 25-26) 実技試験 27-28) 実技試験 29-30) まとめ 全回数を以下の教員が担当する。 濱田 淳、佐藤 光浩、佐藤 勉
授業の進め方	説明と実技実習を交えて講義を行う。病態を理解し、正しい診断法、整復法及び固定法を習得出来るように反復練習する。教員が各グループを見て回り、適宜指導を行う。包帯法・テーピングの復習を適宜行う。
能動的な学びの実施	実技実習では2人～4人一組となりお互いの身体に整復や固定を行うことで技術の修得を図る。 また、実習内容によってはグループに分かれグループ毎に評価表を基に評価を行い、ディスカッションを通して問題点や課題を理解する。
授業時間外の学修	授業時間外学習（合計60時間程度） 予習：講義予定の部位について教科書・参考書を参照し、キーワードに関して基本的な理解を得ておくこと 復習：実習で得た知識をノートなどにまとめる。また、実習で得た技術は反復練習を行い、技術向上を図る。
教科書・参考書	教科書：「柔道整復学・理論編」・「柔道整復学・実技偏」（南江堂） クリニカル・レクチャー 柔道整復実践技術（メジカルビュー）
成績評価方法と基準	平常点（実習態度、出席数など）30%、実技試験70%にて到達目標に達成しているかどうかを総合的に評価を行う。 実技科目のため、原則として3回（6コマ）以上欠席（考慮できる理由なく）した学生は単位を認めない。
課題等に対するフィードバック	学生からの実習進捗確認の都度、コメントを行う。
オフィスアワー	Campus Squareを参照すること
留意事項	進行の度合いにより内容が変更されることもある。その際は事前連絡する。講義内だけでの技術向上は難しいため、個人またはグループでの練習を重ねて技術向上を目指す必要がある。 医療従事者にふさわしい身なりで受講すること。不適切と判断された際には受講できない場合があることを理解する。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	Zoomによるオンライン授業 授業動画配信によるオンデマンド授業 課題学修 のいずれか、または複数を組み合わせて実施する。 授業中課題50%と定期試験の成績50%にて到達目標に達成しているかどうかを総合的に評価を行う。 対面試験が実施できない場合はそれに代わる非対面試験で評価する。

2025年度

科目名称	臨床整復学実習
授業コード	BH363
英語名称	Clinical Reposition by Judo practice 7
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	濱田 淳, 佐藤 光浩, 佐藤 勉
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	下肢の各部（下腿から足指まで）の損傷について骨折・脱臼・筋腱軟部組織損傷を中心に柔道整復師が行う施術・応急処置の目的、種類、方法の理論を学び、実技実習を繰り返し習熟する。その際、術者、助手、患者などの担当者を決め、それぞれの状況、役割を体験することで実践力を養う。また、各論的に種々の外傷に応用できる固定法を実技実習したうえで、柔道整復師における保存療法の範囲について学ぶ。
科目に関連する実務経験と授業への活用	柔道整復師を目指すうえで必要な下肢の各部（下腿から足指まで）の損傷について診断法、整復法、固定法を、接骨院での臨床経験のある教員がその経験を活かして講義する。 担当教員 濱田 淳 元接骨院院長 柔道整復師 佐藤 光浩 元接骨院院長 柔道整復師 佐藤 勉 元接骨院勤務 柔道整復師
到達目標	・柔道整復師の基礎概念を習得し、本講義内で学習する外傷について、既に学んだ理論から実践への繋がりを理解し、それを第3者に説明できるとともに、実践するために何が分析できる知識を持ったうえで実践力を身につける。 ・外傷発生における条件を理解し説明をできるようにする。 ・実践的なシミュレーション下において、瞬時に適切な検査・診断ができるようにする。 ・カリキュラム・ポリシーに掲げる「柔道整復の技術を学び、実践力を養う」および「柔道整復の応用力・実践力、および主体性やコミュニケーション能力を身につける」が実現するよう、柔道整復学分野の臨床的な知識・技術を身につける。
計画・内容	1-2) 講義概説 下腿部の損傷 、認定実技内容 3-4) 下腿部の損傷 、認定実技内容 5-6) 下腿部の損傷 、認定実技内容 7-8) 足関節部の損傷 、認定実技内容 9-10) 足関節部の損傷 、認定実技内容 11-12) 足関節部の損傷 、認定実技内容 13-14) 足関節部の損傷 、認定実技内容 15-16) 足・趾部の損傷 、認定実技内容

2025年度

計画・内容	17-18) 足・趾部の損傷 、認定実技内容 19-20) 足・趾部の損傷 、認定実技内容 21-22) 総合復習 23-24) 実技試験 25-26) 実技試験 27-28) 実技試験 29-30) まとめ 全回数を以下の教員が担当する。 濱田 淳、佐藤 光浩、佐藤 勉
授業の進め方	病態を理解し、正しい診断法、整復法及び固定法を習得出来るように反復練習する。
能動的な学びの実施	授業内容によってはグループに分かれグループ毎に評価表を基に評価を行い、ディスカッションを通して問題点や課題を理解する。
授業時間外の学修	授業時間外学習（合計60時間程度） 予習：講義予定の部位について教科書・参考書を参照し、キーワードに関して基本的な理解を得ておくこと 復習：実習で得た知識をノートなどにまとめる。また、実習で得た技術は反復練習を行い、技術向上を図る。
教科書・参考書	教科書：「柔道整復学・理論編」・「柔道整復学・実技偏」（南江堂） クリニカル・レクチャー 柔道整復実践技術（メジカルビュー）
成績評価方法と基準	平常点（課題内容、出席数など）30%、実技試験70%にて到達目標に達成しているかどうかを総合的に評価を行う。 実技科目のため、原則として3回（6コマ）以上欠席（考慮できる理由なく）した学生は単位を認めない。
課題等に対するフィードバック	学生からの課題などの進捗確認の都度、コメントを行う。
オフィスアワー	Campus Squareを参照すること
留意事項	進行の度合いにより内容が変更されることもある。その際は事前連絡する。 講義内だけでの技術向上は難しいため、個人またはグループでの練習を重ねて技術向上を目指す必要がある。 非対面形式であっても医療従事者にふさわしい身なりで受講すること。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	Zoomによるオンライン授業 授業動画配信によるオンデマンド授業 課題学修 のいずれか、または複数を組み合わせて実施する。 授業中課題50%と定期試験の成績50%にて到達目標に達成しているかどうかを総合的に評価を行う。

2025年度

非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	対面試験が実施できない場合はそれに代わる非対面試験で評価する。
------------------------------------	---------------------------------

2025年度

科目名称	臨床整復学実習
授業コード	BH415
英語名称	Clinical Reposition by Judo practice 8
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	佐藤 勉, 山中 博之, 戸部 悠紀
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	本実習は競技者や高齢者の外傷予防に関する内容を教授する。また、基礎整復学 で学んだ競技者や高齢者の外傷保存療法の経過及び治癒の判定についてさらに理解を深める実習を行う。
科目に関連する実務経験と授業への活用	臨床経験豊富な非常勤講師（山中；接骨院院長、柔道整復師）および本学教員（佐藤、戸部；柔道整復師）が臨床現場で行う施術録の手法を演習を通じて教授する。
到達目標	カリキュラムポリシーに掲げる柔道整復の応用力・実践力、および主体性やコミュニケーション能力を身につけることを目的とする。具体的には下記の到達目標をあげる。 1.競技者や高齢者の外傷予防および外傷保存療法の経過及び治癒の判定に関して理解し実践できることを目標とする。 2.各外傷についての発生機序から症状などを説明でき、診察法、応急処置、治療法、後療法などを適切に実施できる知識や技術を身に付ける。 3.学んだ知識をもとに患者の状態を的確に判断し適切な治療を行うことができる。 4.コミュニケーション能力を発揮できる。
計画・内容	1),2) ガイダンス：佐藤（柔道整復師）、山中（柔道整復師）、戸部（柔道整復師） 3),4) 運動が生体に与える影響（エネルギー代謝、筋骨への影響）：佐藤（柔道整復師）、山中（柔道整復師）、戸部（柔道整復師） 5),6) 運動による呼吸・循環への影響：佐藤（柔道整復師）、山中（柔道整復師）、戸部（柔道整復師） 7),8) 競技者の外傷予防と保存療法の経過及び治癒の判定（上肢）：佐藤（柔道整復師）、山中（柔道整復師）、戸部（柔道整復師） 9),10) 競技者の外傷予防と保存療法の経過及び治癒の判定（体幹）：佐藤（柔道整復師）、山中（柔道整復師）、戸部（柔道整復師） 11),12) 競技者の外傷予防と保存療法の経過及び治癒の判定（上肢）：佐藤（柔道整復師）、山中（柔道整復師）、戸部（柔道整復師） 13),14)競技者の外傷予防と保存療法の経過及び治癒の判定（柔道）：佐藤（柔道整復師）、山中（柔道整復師）、戸部（柔道整復師） 15),16)競技者の外傷予防と保存療法の経過及び治癒の判定（水泳）：佐藤（柔道整復師）、山中（柔道整復師）、戸部（柔道整復師） 17),18)競技者の外傷予防と保存療法の経過及び治癒の判定（バスケット）：佐藤（柔道整復師）、山中（柔道整復師）、戸部（柔道整復師） 19),20)競技者の外傷予防と保存療法の経過及び治癒の判定（サッカー）：佐藤（柔道整復師）、山中（柔道整復師）、戸部（柔道整復師） 21),22)競技者の外傷予防と保存療法の経過及び治癒の判定（成長期外傷）：佐藤（柔道整復師）、山中（柔道整復師）、戸部（柔道整復師） 23),24)競技者の外傷予防と保存療法の経過及び治癒の判定（これまでのまとめ）：佐藤（柔道整復師）、山中（柔道整復師）、戸部（柔道整復師） 25),26)高齢者の外傷予防と保存療法の経過及び治癒の判定：佐藤（柔道整復師）、山中（柔道整復師）、戸部（柔道整復師） 27),28)総合復習 12)回まで：佐藤（柔道整復師）、山中（柔道整復師）、戸部（柔道整復師）

2025年度

計画・内容	29),30) 総合復習 13)回以降：佐藤（柔道整復師）、山中（柔道整復師）、戸部（柔道整復師）
授業の進め方	配付資料や教科書にて実習を進める。
能動的な学びの実施	該当なし
授業時間外の学修	予習・復習を計60時間以上行うこと（教科書やプリントと関連付けて自分の講義ノートを整理すること）。
教科書・参考書	教科書 柔道整復学理論編（全国柔道整復学校協会編、南工堂） 競技者の外傷予防（全国柔道整復学校協会編、医歯薬出版）
成績評価方法と基準	定期試験（100％）
課題等に対するフィードバック	学生の質問の都度、指導を行う。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	これまで学んだ生理学、解剖学、柔道整復理論および運動学を必要とする。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	zoomによるオンライン授業と課題学修を組み合わせで実施する。 授業中課題30％と掲示機能を用いて期末試験70％で評価する。